週刊 YEARBOOK

日録20世紀

1936
昭和11年

2|10
平成10年2月10日発行
(毎週1回発行)第2巻第5号
¥560
講談社

前畑と孫基禎、
ベルリン五輪の「光と影」

中国の転換点！
驚愕の「西安事件」と「抗日」

英国王、
“王冠を賭けた恋”で退位

「二・二六事件」勃発！

「前畑がんばれ!」の陰に、孫基禎の悲劇
スポーツの祭典が〝政治の舞台〟に
第11回ベルリン五輪の「光と影」

▲ベルリン五輪では、オリンピック精神にのっとるとして新しい試みもなされたが、ギリシャのオリンピアからの聖火リレーもそのうちのひとつだった。 ユニフォト・プレス

史上初めて国家が前面に立ち、国威の発揚の場として開催された「ナチス・オリンピック」は、まさに国際的思惑のぶつかり合う政治の舞台となった。その中で、日本勢は、田島直人、前畑秀子らが優勝するなど金メダル六個獲得という、かつてない健闘を見せた。だがその一方で、金メダルを獲得したがために、迫害を受けた〝日本選手〟がいた——。

「新文化を顕示せよ」ヒトラーの国威発揚

一二万人の大観衆の前で、すべてがいかにもゲルマン的に、几帳面に進行していた。それでいて演出効果は十二分に計算されつくしていた。昭和一一年八月一日、ドイツのベルリン近郊で開かれた第一一回オリンピック、またの名を〝ナチス・オリンピック〟の開会式である。

この大会で聖火リレーが初めて導入され、ギリシャから、三〇七五人のランナーによって運ばれた聖火が点火されるや、ドイツ国歌「世界に冠たるドイツ」の大合唱がスタジアムを圧倒した。総統ヒトラー（四七）が簡潔に開会を宣言した午後四時、ファンファーレとともに、二万羽の伝書鳩が一斉に放たれ、上空にはドイツの誇る最新鋭飛行船「ヒンデンブルク号」が飛来した。全長二四八メートル、直径四二メートルの巨体は、五〇人の乗客、四〇人の乗組員を乗せ、ハーケンクロイツとオリンピック旗をたなびかせ、ドイツの技術力を誇示したのだった。

政権につくまでのヒトラーは、オリンピックを「ユダヤ主義に汚れた芝居など、

▲▶写真上は第1位でスタジアムに入るマラソンの孫基禎選手。右は胸の日の丸が消されて「東亜日報」に掲載された、孫の表彰式の写真。

昭和一一年八月二五日付「東亜日報」 KRN

▶オリンピックのポスター。この大会で初めて月桂冠が登場。

▲▶棒高跳びでは、大江季雄選手が4歳年長の西田修平選手に2位を譲った。メダルは後に銀・銅半分ずつつなぎ合わされ、〝友情のメダル〟と話題になった。

秩父宮記念スポーツ博物館提供（左も）

◎表紙　この年2月26日、「昭和維新」の断行を叫んで蹶起（「二・二六事件」）した青年将校たち。首相官邸で。 毎日新聞社

「前畑がんばれ!」の陰に、孫基禎の悲劇
スポーツの祭典が〝政治の舞台〟に

第11回ベルリン五輪の「光と影」

▲メイン・スタジアムで観戦するヒトラー総統。

国家社会主義の支配するドイツでは上演できないだろう」と罵倒していた。ところが政権についたとたん、豹変し、「ドイツ新文化を顕示せよ」との〝鶴の一声〟で、スタジアムを一新したのをはじめ、第三帝国の総力をあげた準備が始まった。ナチス・ドイツのこの大会に投じた予算は当時の日本円で一億円に達していた。

開会前、ナチスのユダヤ人迫害に反対し、国際的に大会ボイコットの声も上がった。だが、参加した五二の国と地域の役員・選手団は、並はずれた統制ぶりにかすかなそらおそろしさをおぼえたとはいえ、その演出に魅了され、反ナチス感情をやわらげていた。フランス人特派員の一人は、「もはや戦争の危機は消え去りました。ここには同志愛の絆と平和の心だけがあります」と放送した。実際、ヒトラーの演出でユダヤ人迫害のスローガンは完全に撤去され、禁止されていたジャズも復活し、地方に追放した娼婦すらベルリンに一時的に呼び戻された。だが、一方では、一部はカムフラージュのため参加させたが、ユダヤ人の多くはドイツ代表からはずされていたのである。

▲女子200メートル平泳ぎで、後半激しく追い上げるドイツのマルタ・ゲネンゲルをわずか0.6秒差でおさえて優勝した前畑選手。

「前畑がんばれ」と孫基禎への〝迫害〟

舞台裏で錯綜する国際政治のぶつかり合いをよそに、日本選手団は大健闘を見せた。金メダル第一号は三段跳びの田島直人（二二）、一六メートルの世界新記録での優勝だった。棒高跳びには大江季雄（二二）と西田修平（二六）が出場した。朝一〇時にスタートした競技は、日本の二選手とアメリカのアール・メドーズの三つ巴となり、照明灯がともっても延々と続いた。夜八時になって、メドーズが、四メートル三五をクリアして金メダルを確定した。この年のドイツは天候不順で、夏とはいえ、三万人の観衆は寒さに震えた。結局、日本勢二人の勝負はつかず、大江が先輩・西田に「銀」を譲る。後に「銀」「銅」のメダルが半分ずつ継ぎ合わされ、〝友情のメダル〟と呼ばれた。

このオリンピックは、NHKが初めて実況放送を行い、ベルリンからの実況中継に国民は胸を躍らせていた。そのピークが女子二〇〇メートル平泳ぎだった。好スタートを切った前畑秀子（二二）は、後半、ドイツのゲネンゲルに激しく迫られた。実況の河西三省アナ（三七）は、机に飛び乗り「前畑がんばれ！」を連呼した。前畑がトップでゴールするまでのわずか三分強に、「がんばれ」をなんと三八回、「勝った」を一九回も絶叫したのである。

ナチスのユダヤ人迫害の陰に隠れてはいたが、日本人にとって重苦しく記憶されているのは、マラソンに日の丸のゼッケンをつけ、「日本人」として出場した孫基禎（二三）の優勝劇だった。五六選手が出場した「オリンピックの花」マラソンには三人の「日本」選手がいた。が、孫と南昇龍（二三）の出身地は朝鮮半島だった。大会九日目の午後三時にスタートしたマラソンは、沿道に一〇〇万人の観衆があふれる人気だった。孫は後半トップに立つとそのままゴールイン、二時間二九分一九秒は五輪新記録だった。南も三位に入り、メインポールに二本の日の丸が揚がったのである。だが、戦後になって孫は「あの時、心の中では日本のためでなく、韓国のために走った」と語っている。そして大会直後も、サインを求められると、「日本」や「JAPAN」ではなく、ハングルか英語で名前を「KOREA」としたためていた。

京城（ソウル）の新聞「東亜日報」は、孫の胸の日の丸を塗りつぶした写真を掲載して、発禁処分を受けた。孫は韓国人としてやるべきことをやったと思っていた。だが、孫には帰国途中から警官や憲兵の監視が常時つくようになる。訪問者があると、その人と孫本人に、別々に会話内容が聴取された。朝鮮に帰った後も、いっさいの歓迎行事は行われなかった。かよっていた京城の養正高等普通学校への登校も、人の集まるところに行くことも、電車に乗ることすら禁じられた。五輪マラソンの優勝者に与えられる青銅製の兜も、なぜか孫に渡されず、孫の手に渡ったのは大会から五〇年後、昭和六一年のこと。国際五輪委（IOC）はいまだに、「日本」の金メダルと認定している。だからこそ、バルセロナ五輪で韓国の黄永祚がマラソンで金メダルを獲得すると、韓国メディアは一斉に「五六年の恨を晴らした」と書いたのである。

▲前畑の活躍を伝えた河西（右）と山本の両アナウンサー。

メダル獲得の日本選手

メダル	氏名	競技名	記録
金	孫基禎	マラソン	2時間29分19秒0
金	田島直人	三段跳び	16m
金	寺田登	1500m自由型	19分13秒7
金	葉室鉄夫	200m平泳ぎ	2分42秒5
金	遊佐正憲 杉浦重雄 田口正治 新井茂雄	競泳800mリレー	8分51秒5
金	前畑秀子	200m平泳ぎ	3分03秒6
銀	原田正夫	三段跳び	15m66
銀	西田修平	棒高跳び	4m25
銀	遊佐正憲	100m自由型	57秒9
銀	鵜藤俊平	400m自由型	4分45秒6
銅	南昇竜	マラソン	2時間31分42秒
銅	田島直人	走り幅跳び	7m74
銅	大江季雄	棒高跳び	4m25
銅	新井茂雄	100m自由型	58秒0
銅	牧野正蔵	400m自由型	4分48秒1
銅	鵜藤俊平	1500m自由型	19分34秒5
銅	小池礼三	200m平泳ぎ	2分44秒2
銅	清川正二	100m背泳ぎ	1分08秒4
銅	藤田隆治	芸術	
銅	鈴木朱雀	芸術	

▲三段跳びと走り幅跳びの田島直人選手。

▶棒高跳びの西田修平選手。前回のロス五輪に続き連続銀メダル。

▶水泳平泳ぎの前畑秀子選手。翌年結婚し、兵藤姓となった。

▲棒高跳びの大江季雄選手。昭和16年、比島で戦死。

▶一六メートルの世界記録で優勝した三段跳びの田島直人選手。

毎日新聞社

重臣を殺害し、首都中枢部を4日間占拠
兵1400人を率いて青年将校が"暴発"
クーデター「二・二六事件」勃発！

▶叛乱軍は首相官邸や重臣の私邸などを襲撃すると同時に、東京の中枢部である永田町一帯を占拠した。写真は山王坂下の料亭・幸楽の前で。 共同通信社

◀料亭・幸楽を占拠した叛乱軍。幸楽は2月27日の夜、赤坂山王ホテルとともに叛乱軍の部隊に占拠され、兵士たちの宿所となった。
影山光洋

青年将校が「昭和維新」を旗印に蹶起、重臣を殺害し、首都の中枢部を四日間にわたって占拠するというわが国近代史上初のクーデターが勃発した。陸軍内部の派閥対立で収拾に手間取る中、天皇は終始「叛乱軍」と主張、鎮圧を求めた。青年将校らの野望はついえ、東条英機らに代表される統制派が陸軍の主流となり、日本は戦争への道をひた走ることになる。

「昭和維新を断行せん」青年将校がクーデター

昭和一一年二月二五日の夜半、東京は三〇年ぶりという大雪が降り始めた。二六日午前零時から四時にかけ、歩兵第一連隊、歩兵第三連隊、近衛歩兵第三連隊の下士官、兵たちに非常呼集がかかった。兵たちは尺を越す積雪の中、完全装備で立ちつくす。約一四〇〇人の部隊を率いた青年将校らは、午前五時を期して作戦を開始した。

栗原安秀中尉（二七）率いる首相官邸襲撃隊は、栗原が小銃隊とともに正門から侵入する。時を同じくして林八郎少尉（二二）の第三小隊が裏門を突破した。非常ベルが一斉に鳴り始める中、小隊は邸内になだれこんだ。官邸側からは、数人の警官の抵抗だけで、侵入した部隊による邸内制圧には一〇分もかからなかった。栗原隊は中庭に据えた重機関銃を、岡田啓介首相（六八）の寝所の日本間に向けて乱射した。耳をつんざく音がやむと、全身に被弾し、壁によりかかっている一人の遺体があった。栗原らはこれを首相と認め、鬨の声をあげた。後に首相の義弟と判明するが、一時は"首相即死"という情報が駆けめぐった。しかし首相自身は避難し、無事だったのである。

青年将校らは、首相官邸をはじめ重臣の私邸などを襲い、陸軍省、参謀本部などを占拠した。「昭和維新」を掲げ、「奸臣軍賊を誅戮し、維新を断行せん」というクーデターであった。その結果、斎藤実内大臣（七七＝即死）、高橋是清蔵相（八一＝即死）、鈴木貫太郎侍従長（六八＝重傷）、渡辺錠太郎教育総監（六一＝即死）らが殺傷された。そして、日本の心臓部を四日間にわたって占拠し続けたのである。

この事件には伏線があった。青年将校が横断的に結合して国家革新をはかろうとする皇道派と、総力戦体制の国家をめざす幕僚を中心とした統制派の、陸軍内部の主導権をめぐる確執である。前年、皇道派の真崎甚三郎教育総監（当時・五八歳＝大将）が更迭されたことに怒った皇道派の相沢三郎中佐（当時・四五歳）が、統制派のホープ、永田鉄山軍務局長（当時・五一歳＝少将）を刺殺する事件が発生。青年将校たちは相沢裁判をテコに「昭和維新」決行を心に誓い、荒木貞夫大将や真崎ら皇道派将官は、青年将校の運動を陰に陽にバックアップし、自派の影響力拡大をもくろんだのである。

二月二六日の午前八時三〇分頃、占拠した陸相官邸に真崎が勲一等の勲章を佩き、意気揚々とやって来た。磯部浅一元一等主計（三〇）が「閣下、統帥権干犯の賊類を討つために蹶起しました」と語ると、真崎は得意げにこう言った。「とうとうやったか、お前たちの心はヨヲッわかっとる、ヨヲッーわかっとる」。

実際、皇道派軍人は蹶起部隊を擁護し、「穏便な解決」に奔走した。「諸子が蹶起の趣旨は天聴に達したり」とする説得文を作成、占拠を解けば不問に付すという妥協案が作られ、また、「勅語」を与えて帰順させるなども検討されていた。

流れを「叛乱軍鎮定」へと傾けた天皇の叱責と激怒

しかし、事態は真崎や荒木の思惑どおりには運ばなかった。何よりも天皇自身が激怒し、「暴徒、叛乱軍」と明確に規定したからである。天皇は事件を報告する川島義之陸相（五八）に対し、「叛乱軍を速やかに鎮圧する（中略）のが先決」と叱責の声をあびせた。こうした中で、流れは「叛乱軍鎮圧」に傾いていくのである。最初は蹶起部隊に同情的だった杉山元参謀次長（五六）も、第一師団の甲府および佐倉部隊の首都投入を指示した自軍出身の岡

▶野中四郎大尉。陸士三六期、岡山県出身。拳銃自殺。
朝日新聞社

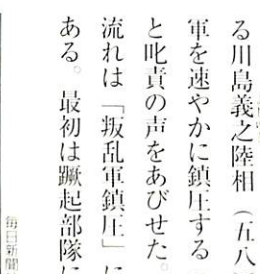
▶香田清貞大尉。陸士三七期、佐賀県出身。銃殺刑。
毎日新聞社

▶村中孝次元大尉。陸士三七期、北海道出身。銃殺刑。
毎日新聞社

▶安藤輝三大尉。陸士三八期、東京府出身。銃殺刑。
朝日新聞社

▶磯部浅一元陸軍一等主計。陸士三八期、山口県出身。銃殺刑。
毎日新聞社

▶栗原安秀中尉。陸士四一期、東京府出身。銃殺刑。
毎日新聞社

▶丹生誠忠中尉。陸士四三期、鹿児島県出身。銃殺刑。
毎日新聞社

◀政府は2月27日、東京市に戒厳令を発令。戒厳令司令部は29日朝から、ラジオ、アドバルーンなどで帰順を呼びかけた。
朝日新聞社

田首相、鈴木侍従長、斎藤内大臣を襲撃された海軍の行動も早かった。横須賀の第一水雷戦隊を芝浦に上陸させ、土佐沖の連合艦隊のうち第一艦隊を東京に、第二艦隊を大阪に向けた。二七日になると、さらに蹶起部隊の旗色は悪くなる。

天皇は「朕が最も信頼せる老臣を悉く倒すは、真綿にて、朕が首を締むるに等しき行為なり」と述べ、事態の収拾に手間取る陸軍首脳に対してしびれを切らし、「朕自ら近衛師団を率い、此が鎮定に当らん、馬を引け」とまで言い切ったのである。また、この日午後四時、第一艦隊は東京湾で艦を横一列に並べ、すべての砲門を市街に向けた。

二八日午前五時八分、ついに「叛乱軍は原隊に帰れ」との奉勅命令が下され、この時点で青年将校たちの「昭和維新」の夢は完全に破れたのだった。そして、二九日朝から「兵に告ぐ」の放送をはじめ、飛行機、戦車、アドバルーンを繰り出して「今からでも遅くはない」という帰順勧告が開始された。青年将校たちは孤立無援のまま、非公開の軍事裁判により刑場に散った。

参加した兵の中には小林盛夫(二一)がいた。現在の五代目柳家小さんである。何も知らず蹶起部隊に参加させられた小林二等兵は、「何なんです、演習ですか」と質問したが答えはなかったという。事件後、参加部隊は満州(中国東北部)に移動させられ、多くの戦死者を出した。一方、彼らの運動に理解を示し、ある時は扇動し、利用もした皇道派の将官たちは不問とされた。特に事件の黒幕、真崎の無罪は、"昭和史の謎"と言われる。

事件後、行方の知れなかった「二・二六事件裁判記録」を発掘・閲覧した弁護士の原秀男氏(元陸軍法務官)は、「真崎は天皇の怒りを知って震えあがり、さっさと手のひらを返して保身をはかった」と、公判記録を読み解く。また、統制派は、この粛軍裁判を利用して皇道派を完全におさえ、軍の主導権を握っていった。そして東条英機に代表される統制派の手によって、日本はファシズムへの道を本格的にたどるのである。

▼叛乱軍を鎮圧するため、国会議事堂に向かう部隊。

女たちの肖像

"前向き"の生き方そのもの! 東郷青児との失恋を原動力に宇野千代、「スタイル」を創刊

稲葉真弓

その前向きの生き方から「幸福教」の教祖と言われ、「私、何だか死なないような気がするんですよ」という名言を残して平成八年六月、九八歳で死去した作家・宇野千代は、着物デザイナーとしても知られている。その下地を作ったのが、この年の六月一日創刊された日本初のファッション雑誌「スタイル」だった。当時彼女は三八歳。「女だけが読むお洒落雑誌があったら」という雑談から、即「スタイル社」を設立、雑誌発刊に乗り出したものだった。

表紙絵はパリから帰国したばかりの藤田嗣治(四九)、加えてファッション記事、コント風の小説が満載された「スタイル」は評判になり、翌一二年、一〇歳年下の千代の新しい恋人、「都新聞」家庭欄の記者だった北原武夫が編集に加わると、斬新な企画が受け、部数を二万部近くに伸ばした。

もともとこの雑誌は、画家の東郷青児との恋の破局から生まれたものだった。「私は男と別れた後、かならずとんでもないことをし始める」とみずから認める彼女の、失恋を原動力にした大事業だったのである。

明治三〇年、山口県玖珂郡岩国町(現・岩国市)の酒醸造業の家に生まれた宇野千代の人生は、多くの恋を抜きにしては語れない。小学校の代用教員をしていた一八歳の時、同僚との恋で学校を追われた彼女は、二年後、東大生の従兄弟、藤村忠を追って上京、二二歳で結婚。一時札幌で暮らしたが、二四歳の時「作家になろう」と夫のもとを出奔、東京で作家の尾崎士郎と出会い大正一五年二月再婚。さらに先にあげた東郷青児との恋、北原武夫との再々婚で浮き名を流し、これらの経験を肥やしにして次々と名作をものにしていく。

彼女の文壇デビューは大正一〇年、「時事新報」の懸賞小説に当選した二四歳の時のことだが、本格的作家人生が開花するのは、東郷の恋愛遍歴を描いた『色ざんげ』(昭和八年)あたりからである。以後の彼女は問き書き風、私小説風の作品に筆をふるい、昭和三二年、『おはん』で野間文芸賞、翌年女流文学賞を受賞、同時に着物デザイナーとしても活動を続けた。

「スタイル社」は昭和三四年倒産。五年後北原とも離婚したが、何があっても「私は幸福」と言い切る姿勢が共感を呼び、五八年には、自叙伝『生きていく私』が一〇〇万部を超えるベストセラーとなった。

▶平成八年六月一〇日、急性肺炎で死去。

勝者・敗者

ベルリンで生まれた「伝説」 国際的に無名の日本サッカー優勝候補スウェーデンに勝利

阿部珠樹

日本サッカー界には、ほぼ三〇年ごとに奇跡が起こるという「伝説」がある。平成八年のアトランタ・オリンピックでの対ブラジル戦勝利、その二八年前のメキシコ・オリンピックでの銅メダル、そしてメキシコからさかのぼること三二年、昭和一一年ベルリン・オリンピックでの対スウェーデン戦の勝利である。いずれも、戦前は圧倒的な不利が伝えられる中でつかんだ、まさに奇跡に近い勝利だった。

では、その奇跡の始まりはどんな戦いだったのか。

ベルリン・オリンピックは、日本代表チームにとって、史上初めてアジア以外の地域で戦う国際試合だった。国際的にはまったく無名の日本の緒戦の相手は、優勝候補にもあげられていたスウェーデンである。

試合は、立ち上がりからスウェーデンが長身と圧倒的な体力にものをいわせて支配する。前半に早くも二点。このままいったら、後半にはどれだけ点差を広げられるか、というような展開だった。

だが、後半に入り、試合の様相は一変する。まず、後半四分、速いパス回しでボールをつないだ日本は、戦前最高のフォワードと言われた川本泰三(二二)がシュートを決めて、一点差に追い上げる。次いで一三分には右近徳太郎(二二)が決めて同点。このあたりから、スウェーデンチームに焦りの色が感じられるようになる。

『日本サッカー協会75年史』に寄せられたスウェーデン人のウォルフ・リーベリ氏の回想によると、「ピッチのいたるところに、日本人選手がいる。まるで、スウェーデン選手の二倍はいるようだ」というラジオのアナウンサーの叫びが忘れられないという。そして終了五分前、ついに日本は松井行(二二)が決勝点となるゴールを決めた。周囲はもちろん、選手たちすら予想もしなかったみごとな勝利だった。

この時の日本チームには、当時日本の統治下にあった韓国出身の金容植(二六)の名もあった。後に故国に戻り、「韓国サッカーの父」と言われた人である。

朝日新聞社
▲日本チームは強豪スウェーデンを破った(写真)が、2回戦ではイタリアに0対8で惨敗した。

ニュース・ファイル

1936

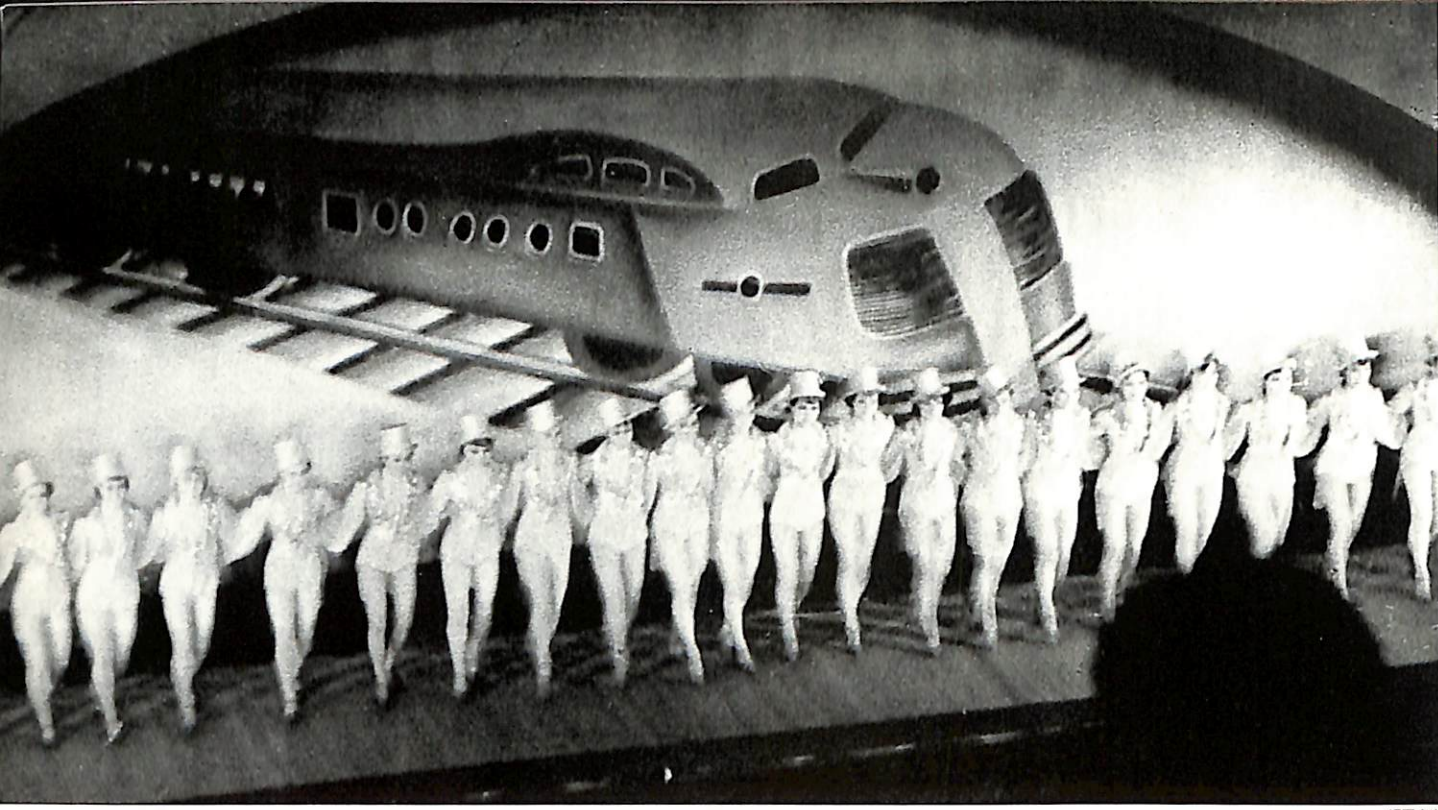
フォト＋日録で再現する366日

「二・二六事件」勃発。これを鎮圧した統制派は政治への干渉を強め、着々と軍部独裁を実現。ベルリン・オリンピックでの日本選手の活躍、プロ野球リーグ戦開幕などの話題の陰で、中国侵略の正当化、日独防共協定の締結など、日本は次第に世界戦争への道を歩み始めた。

◀天才バイオリニストの諏訪根自子、16歳の単身修業（1月23日）かつてジンバリストを驚嘆させた才能を磨くため、交換留学生としてベルギーへ向け神戸を出航した。2年後パリに移り、華麗なデビューをはたした。
朝日新聞社

1月

◀ラインダンス、デビュー（1月13日）東京・有楽町の日本劇場が21日まで「ジャズとダンス」を公演。ニューヨークのステージ・ショーをまねた専属舞踊団（日劇ダンシングチームの前身）の群舞に観客はびっくり。
師岡宏次

▼永田軍務局長刺殺事件公判開く（1月28日）東京・青山で行われた軍法会議に、被告・相沢三郎中佐（起立した後ろ姿）が出廷。皇道派は統制派弾劾を展開したが、「二・二六事件」で挫折、相沢は7月3日に処刑された。

▼「歌の帝王」シャリアピンに万雷の拍手（1月27日）4000人収容の東京・日比谷公会堂が満席。コルサコフ「予言者」で始まったロシア出身の朗々たるバスに酔った。写真は歌舞伎座に菊五郎（左）を訪ねたシャリアピン。

▶救急車出動（1月20日）火災や交通事故の増加に対処するため、警視庁消防部が人工呼吸装置などを設置した米ダッジ社製6台の寄贈を受けてスタート。173の救急病院を指定、救急呼び出し電話119番の設置も決定した。

朝日新聞社

「国際写真情報」／国際フォト

▶英先帝・ジョージ5世葬儀（1月28日）ウィンザー宮で式典が行われ、20日の崩御とともに即位したエドワード8世と142名の水兵に守られて、柩は首都の街を粛々と進んだ。
朝日新聞社

▲男女ノ川、横綱昇進（1月21日）春場所の2敗で昇進をあやぶまれたが、番付編成会議で満場一致の推挙。茨城県出身、32歳。優勝2回。「動く仁王」と言われ、怪力を利したきめ出しが得意だった。
毎日新聞社

昭和11年1月

1（水）●チャハル省に内蒙古自治政府が事実上成立。
2（木）●福岡県大刀洗飛行場―台北間の旅客輸送開始。
3（金）●岩手県矢沢村高木地区の全青年男女が禁酒会に加入し揃いの「禁酒半纏」作る、と新聞に。
4（土）●年賀電報三〇〇万通で前年から倍増と新聞に。
5（日）●北海道・社台牧場が購入した日本最高額、五〇万円の英競走馬「ステーツマン号」が横浜着。
6（月）●埼玉県種畜場の白色レグホンの鶏が年間三三九個産卵の世界記録、と新聞に。
7（火）●天皇機関説論者として攻撃されていた金森徳次郎法制局長官、岡田啓介首相に辞表を提出。
8（水）●東京の円タクは一二年で一〇倍増と市統計局。
9（木）●日本電工が高純度国産ニッケル製造と新聞に。
10（金）●東京地裁、地下鉄工事で建物損傷を受けた病院による八年越しの損害賠償請求を認める。
11（土）●東京で市電に飛び乗りそこねた客が死亡。
12（日）●同志社大隊、厳冬期の樺太国境踏破に成功。
13（月）●日劇ダンシングチーム、初公演。
●政府、「第一次北支処理要綱」を決定。
14（火）●北海道・三井砂川炭鉱で爆発事故。二四人死傷。
15（水）●日本、ロンドン海軍軍縮会議脱退を通告。
●プロ野球の名古屋軍結成（17日東京セネタース、23日阪急、2月15日大東京、28日名古屋金鯱軍結成。巨人・大阪と合わせ計七球団）。
●総同盟と全労が合同し全日本労働総同盟結成。
16（木）●松竹、蒲田撮影所を閉鎖し大船撮影所を開所。
17（金）●前年の奈良大仏殿入場一一三万人余と新聞に。
18（土）●千葉県の東京湾岸が二〇キロにわたり氷結。
19（日）●国際学生スキージャンプで日本四位まで独占。
20（月）●警視庁消防部、救急自動車と一一九番通報の業務を開始。救急車は六台配備。
21（火）●政友会が内閣不信任案を提出、衆院解散。
22（水）●豪雪のため北陸本線湯尾トンネル今庄口に雪崩。除雪作業中の八〇人が生き埋め。
23（木）●東京市で流感死者続出。二一日以来一九六人。
24（金）●大本教弾圧で教団各支部が自発的解散。
25（土）●横山隆一「江戸っ子健ちゃん」、「朝日新聞」に連載（9月30日、「養子のフクちゃん」と改題）。
26（日）●奈良県で天理教教祖五十年祭。三〇万人参加。
27（月）●シャリアピン独唱会、日比谷公会堂で開催。
28（火）●仙山線で雪崩のため列車転落。六十余人死傷。
29（水）●フランソワーズ・ロゼー主演「ミモザ館」封切。
30（木）●東洋紡など紡績資本が続々華北進出と新聞に。
31（金）●東京五輪会場、神宮外苑に正式決定。

▲ヒトラー、国民車開発計画を発表(2月15日)大衆価格で、しかもアウトバーンを疾走できる性能が条件。翌年、ポルシェ設計の「フォルクスワーゲン"ビートル"」として完成した。

ユニフォト・プレス

▲ドイツで巨大飛行船「ヒンデンブルク号」公開(2月29日)全長248、最大直径42メートルの巨体で、乗員・乗客約100人。翌年独米定期便第1号となるが、ニューヨーク近郊で爆発。飛行船時代に終止符を打った。

「国際写真新聞」

◀東京に猛烈寒波(2月4日)午後から雷をともなう猛吹雪となった。23日にはこの日を上回る35.5センチの積雪を記録。北海道で6月に9センチ積もるなど、日本列島はこの年、ことのほか寒かった。

▶巨人、2度目の米遠征(2月14日)29日に第1戦を行った後、3カ月間各地を転戦し6月5日帰国。日本では、4月29日にプロ野球リーグが始まっていた。写真左端がスタルヒン、左から4人目・沢村栄治。

毎日新聞社

◀国際連盟新会館オープン(2月19日)レマン湖を見下ろすスイスのジュネーブに完成、この日引っ越しが行われた。国際紛争激化の中、独が脱退、その平和維持機能は弱体化していた。

▶社会大衆党躍進(2月20日)選挙粛正運動下の第19回総選挙。民政党が大勝し、政友会は退潮、社会大衆党は18人も当選した(解散時3人)。前列左から麻生久、安部磯雄、河野密、浅沼稲次郎。

「国際写真情報」/国際フォト

昭和11年2月

1(土)●名古屋第二放送、プロ野球試合を初実況中継。

2(日)●世界女子スピードスケート選手権五〇〇㍍で、木谷妙子が世界新で三位。

3(月)●ソ連、国境委員会設置を「満州国」に提案。

4(火)●前年一〇月末の自動車台数一三万四八五九台。
●選挙戦で政見など演説レコード繁盛と新聞に。
●東京で五〇年来の大雪、市内大混乱。

5(水)●米の対中国武器輸出が急増とワシントン発。

6(木)●第四回冬季五輪、独で開幕(~16日)。

7(金)●警視庁、医師の届出制など結核対策案を策定。

8(土)●英シンガポール駐屯軍、兵力三倍増強と発表。

9(日)●三菱重工が木炭自動車の製造開始、と新聞に。

10(月)●野坂参三・山本懸蔵、モスクワで「日本の共産主義者へのてがみ」発表。統一戦線を提唱。

11(火)●冬季五輪で石原省三がスピードスケート五〇〇㍍に日本新で四位(日本唯一の入賞)。

12(水)●「満州国」輸入額の七六㌫は日本からと判明。

13(木)●内田吐夢監督「人生劇場・青春編」封切。

14(金)●高知県宿毛湾上空で艦載機同士が衝突、墜落。

15(土)●東京―上海間に無線電話が開通。

16(日)●スペインの総選挙で人民戦線派が大勝(7月17日、フランコ派がモロッコで反乱)。

17(月)●中国紅軍主力二万余、彭徳懐・林彪らの指揮下に山西省進出(21日、東征抗日を宣言)。

18(火)●甘納豆など菓子一〇〇点に漂白剤として亜硫酸が多量使用と判明、と新聞に。

19(水)●満州で、朝鮮独立組織「義烈団」の七人検挙。

20(木)●第一九回総選挙(政友惨敗、民政第一党に)。

21(金)●憲法学者・美濃部達吉、右翼に狙撃され重傷。
●大阪・奈良で地震。九人死亡、一四七戸損壊。

22(土)●観光客四五〇人を乗せたカナダ船「エム・ジャパン号」が横浜に入港。

23(日)●東京で三五・五㌢の積雪、四日の記録破る。

24(月)●北海道定期航空便用のスキーつき飛行機完成。

25(火)●オリンピック招致委財務小幹事会、総経費一五〇〇万円を承認。

26(水)●皇道派青年将校ら、一四〇〇人率い叛乱。各所で重臣を襲撃(「二・二六事件」)。

27(木)●東京に戒厳令施行。
●カナダ下院、東洋移民排斥案を大差で否決。

28(金)●奈良・大峰山の講社代表、女性登山容認を表明。

29(土)●戒厳司令部、「兵に告ぐ」を放送。午後二時までに叛乱軍のほとんどが原隊復帰。
●D51形蒸気機関車第一号が完成。

▲独軍、ラインラント進駐(3月7日)ベルサイユ条約で非武装地帯とされたフランス、ベルギーに接する国境地帯にヒトラーが行った強引な侵略だったが、独軍は各地で大歓迎を受けた。

▶扇風機のCMに原節子(3月)芝浦製作所(現・東芝)が名取洋之助に撮影を依頼、「17歳の美人モデル」が誕生した。原は前年に日活入社、清潔な美貌で人気が出始めていた。

名取洋之助/JPS

▲日本映画監督協会結成(3月1日)日活、松竹、新興、PCL 4社の監督が映画の向上をめざした。写真は5月熱海での会合。前列左・衣笠、右・溝口、2列目右から内田、小津。

▼日本に腰をすえた三浦環(3月)蝶々夫人を当たり役とする国際的オペラ歌手(52)がこの年から故国を舞台に活動。写真は弟子の関屋敏子(左)と。6月には東京の歌舞伎座で2001回目の蝶々夫人に挑んだ。

毎日新聞社

▶チャップリン2度目の来日(3月6日)「モダン・タイムス」で共演した新妻ポーレット・ゴダードとその母親が同伴。「最初の来日は『五・一五』、今度は『二・二六』、因縁を感じる」の言葉を残した。

◀「二・二六事件」の犠牲者、高橋是清前蔵相本葬(3月26日)東京・築地本願寺に市民が詰めかけた。斎藤実前内大臣とともに、多磨墓地の東郷元帥の墓所近くに葬られた。

朝日新聞社

昭和11年3月

1(日)●朝日新聞社の中島式AN1型機が、東京―大阪間を一時間二〇分の新記録で飛行。
●ジャン・ギャバン主演「白き処女地」封切。

2(月)●宮内省、叛乱将校二〇人の位記返上を辞令。

3(火)●愛国婦人会主催の演劇「奥村五百子」、内容に不穏な部分があるとして上演禁止。

4(水)●貴族院議長・近衛文麿、組閣命令を辞退。

5(木)●ロンドン軍縮会議全権・永野修身らが帰国。

6(金)●陸相候補・寺内寿一、自由主義の排除を要求。

7(土)●独、ロカルノ条約破棄し、ラインラント進駐。

8(日)●ビール・焼酎は増産、清酒は苦戦、と新聞に。

9(月)●広田弘毅内閣、発足。軍部の組閣介入に屈服。

10(火)●戒厳司令部、北一輝・西田税らの逮捕を発表。

11(水)●産児制限運動のマーガレット・サンガー来日。

12(木)●ソ連・モンゴル相互援助議定書、締結。日本の脅威に共同で対処。

13(金)●大阪・花園ラグビー場の地元二村、学生試合に興行税四八四円を課税。
●内務省、大本教に結社禁止・建物破壊を命令。

14(土)●電力国家管理に関する内閣調査局試案、発表。

15(日)●英宣教師ジョン・バチェラー、着手以来五九年の『アイヌ語英訳和訳辞典』を完成。

16(月)●前年の小作争議は五五一二件と農林省発表。

17(火)●内職月収は八時間労働で七円弱と東京市発表。
●アリゾナ州で日本人に対する農業禁止令解除。

18(水)●第五回冬季五輪開催地は札幌と決定。

19(木)●札幌で婦女子身売防止協議会、開催。

20(金)●日本郵船、日本・南洋・豪州線を開設。

21(土)●富士写真が初の国産映画用ネガフィルム販売開始で輸入品と値下げ合戦、と新聞に。

22(日)●「二・二六事件」の記事差し止め・報道制限緩和。号外が発行され、事件の詳細が伝わる。

23(月)●二〇年国債を三億一一〇〇万円発行と告示。

24(火)●内務省、この年のメーデー禁止を通達。

25(水)●「満」ソ国境で日ソ軍が交戦(長嶺子事件)。

26(木)●普通預金金利を半分の七厘五毛に引き下げ。

27(金)●天文学者・木村栄の緯度研究に対する英王立天文学協会授与の金杯が外務省に届く。

28(土)●作家・田村俊子、一七年ぶりに北米より帰国。

29(日)●ドイツで国民投票、九九㌫がラインラント進駐などヒトラーの政策を支持。

30(月)●貴族院「火曜会」の近衛文磨らが、世襲廃止・互選改正など貴族院改革に着手、と新聞に。

31(火)●栃木県庁がストーブの火の不始末から全焼。

▼**孝宮和子内親王、初等科1年に入学(4月8日)**朝8時半から行われる東京・青山の女子学習院入学式に向かった(写真)。孝宮は昭和天皇の第3皇女で現天皇の姉。後の鷹司和子さんである。この頃、身長111センチ、体重約20キロだった。

朝日新聞社

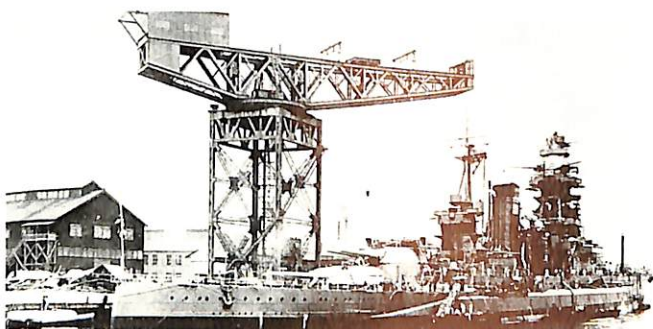
CORBIS-BETTMANN / PPS

▶**ナチス音楽使節、ケンプ来日(4月1日)**ユダヤ系でない音楽家をとのドイツ大使館の意向を受けての来日。9歳で国立音楽院に入学した天才ピアニストで、東京はじめ各地で得意のベートーヴェンを演奏、聴衆を魅了した。

NHK交響楽団提供

▲**パレスチナで反英・反ユダヤ闘争激化(4月25日)**「アラブ高等委員会」が結成され、ドイツ・東欧を追われたユダヤ人の移住中止を求めて6ヵ月にわたるゼネストを宣言。6月には事態はさらに悪化し、内戦状態となった。

▶**阪急梅田—三宮間全通(4月1日)**残っていた西灘—三宮間の高架線が完成、全線開通となった。この日開業した三宮駅の乗降客は約7万人。大にぎわいの中で駅ビルの竣工式典も行われ、宝塚少女歌劇団が出演した。

阪急電鉄提供

▶**新鉄道博物館開館(4月25日)**拡張のため東京・神田須田町に移転、3階建てとなって再開。5月10日まで蒸気文化展覧会を開催した。写真は国鉄第1号蒸気機関車の搬入。

◀**進む軍艦の近代化(5月)**海軍軍縮条約下、各国は20世紀初頭に建造した主力艦を競って改装、近代化と攻撃力・防御力の強化につとめた。写真は工事中の戦艦「陸奥」。

毎日新聞社

毎日新聞社

昭和11年4月

- 1(水)●ライセンス生産の中島ダグラスDC-2(乗客一四人)が、福岡—台北間に就航。
  ●阪急電鉄の梅田—三宮間が全線開通。
- 2(木)●越智貞北大教授、角膜移植手術に成功と発表。
- 3(金)●佐分利信・高杉早苗主演「家族会議」封切。
- 4(土)●満鉄鉄道部の前年度収入が過去最高と新聞に。
- 5(日)●文化裁縫女学校、「装苑」を創刊。
- 6(月)●「満州国」、ソ連・モンゴル条約に抗議声明。
- 7(火)●公定歩合が九厘に(馬場財政の超低金利政策)。
- 8(水)●利根川水郷大橋完成し千葉県佐原町で開通式。
- 9(木)●日本郵船の「秩父丸」、日本初の無線電話送受信機を設備して米へ向け出港。
- 10(金)●警視庁、特高課の右翼担当を一八人増員。
- 11(土)●新興キネマ、俳優学校開設と新聞に広告。
- 12(日)●神戸阪急会館に「三宮マーケット」開設。
- 13(月)●商工省、日本製鉄中心主義を放棄し、日本鋼管・浅野造船の溶鉱炉新設を認可。
- 14(火)●東京市、小学校の同僚教員の結婚禁止と通達。
- 15(水)●福岡県住友忠隈炭坑で人員運搬車が坑底に墜落。五〇人死亡、二十数人負傷。
- 16(木)●ブラジル、日本人移民制限を緩和。
- 17(金)●閣議、中国駐屯軍を五〇〇〇人に増強と決定。
- 18(土)●外務省、外交文書の国号を「大日本帝国」、「皇帝」を「天皇」に統一と発表。
- 19(日)●内務省が血液型捜査研究の部署新設と新聞に。
  ●国家主義労組が愛国労働組合全国懇話会結成。
- 20(月)●横浜入港の独船内でナチス国産見本市開催。
  ●慶弔電報に色刷専用用紙の使用開始。
- 21(火)●聖徳記念絵画館で明治天皇一代の事績を描いた壁画が一二年ぶりに完成、記念式典挙行。
- 22(水)●米でも囲碁が流行し協会を設立との報が届く。
- 23(木)●国鉄の新流線形特急「燕」、東京に到着。
- 24(金)●米老兵会代表、在郷軍人会の招待で来日。
- 25(土)●ワット生誕二百年記念の蒸気文化展覧会開幕。
- 26(日)●水平社の松本治一郎、無産各派の糾合を提唱。
- 27(月)●全国の桑園の雪害が二三〇〇万円突破と判明。
- 28(火)●帝国ホテルで欧米向け日本観光映画試写会。
  ●美濃部達吉『法の本質』など二冊が発禁。
- 29(水)●アメリカ遠征中の巨人をのぞく六球団参加し、第一回職業野球リーグ戦開催(~5月5日)。
- 30(木)●米留学の美術研究者・佐藤深美が日本人女性で初めてフェローシップを獲得、と新聞に。
  ●各労組がメーデー禁止で潮干狩りや茶話会などを企画し、当局が「偽装」監視基準を通達。

証言・あの日この日
三木 清(39)

2月22日(土) 〈午後鎌倉に西田先生を訪ねる。/先生と話していると勉強がしたくなる。自分も哲学者として大きな仕事をしなければならぬ。/私には出来るのだ。他を羨むことも恐れることもない。私の現在の境遇が何だ！ 仕事だ！ そう考えると私は幸福になる。私には力がある〉(三木清「日記」)

このように学問への情熱を日記に記した三木清だったが、三木もまた「二・二六事件」が発生するや、ただちに身を隠さなければならなかった。思想統制と言論弾圧がますます激しくなり、官憲の手が彼の周辺にも伸びてきていた。三木は西田幾多郎門下の哲学者で、欧州留学後パスカル研究で論壇にデビューした。戦時中は反ファシズム運動の闘士として活躍するが、昭和20年逮捕され、終戦直後の9月26日に獄死する。　（山崎行太郎）

◀**「双葉山時代」始まる(5月24日)**大相撲夏場所、関脇で11戦全勝し大関へ昇進。前場所7日目に勝って以降、この場所を経て14年1月場所4日目に敗れるまで69連勝。5場所連続全勝優勝という圧倒的な強さを誇った。

▼**藤原義江渡米(5月)**欧米各地で活躍したほか、昭和9年には藤原歌劇団を結成、日本のオペラ界をリードした「我らのテナー」が、米NBC専属となり日本を離れた。写真はあき夫人と子息。

毎日新聞社

▼**ダットサン、新型発表(5月2日)**昭和9年に量産に乗り出した日産が、東京・京橋の特設館で披露。写真は来館中の女優・夏川静江。秋には豊田なども参入、自動車業界は急に活気づいた。

国際写真新聞

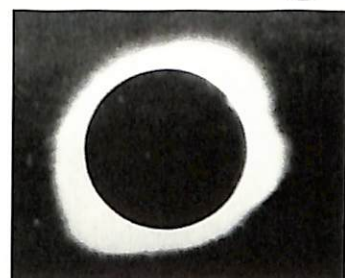
▶**ジャン・コクトー(46)来日(5月16日)**フランスの詩人が世界一周の旅の途次訪問。18日夜には歌舞伎座で「鏡獅子」を観劇、主役の6代目菊五郎と握手した(写真)。紅一点は林芙美子。

◀**新駐英大使・吉田茂が赴任(5月21日)**「氷川丸」で横浜港を出港、夫人らとともにロンドンに向かった。日英関係は中国における権益、通商調整など微妙で、使命は重大だった。

昭和11年5月

- 1(金)●浜松高等工業高校でテレビ試験放送実施。
- 2(土)●浅草本願寺で鉄筋鉄骨の本堂再建棟上げ法要。
- 3(日)●仏下院選で社会党・共産党など人民戦線勝利。
  ●日本郵船、北欧定期航路開設、第一船が出発。
- 4(月)●内務省、治安維持理由に大衆的陳情運動禁止。
- 5(火)●中国紅軍、国民政府に停戦と一致抗日を提起。
  ●金日成ら、抗日統一戦線「祖国光復会」結成。
- 6(水)●ウィーン国立歌劇場音楽監督ワルター・ヘルベルト、新響定期公演を指揮。
- 7(木)●民政党の斎藤隆夫、衆院で「二・二六事件」に関し粛軍演説を行い、軍部の責任を追及。
- 8(金)●この夏もパナマ帽流行、国産で安価と新聞に。
- 9(土)●ムッソリーニ、エチオピア併合を宣言。
- 10(日)●満鉄、撫順に石炭液化工場を建設と決定。
- 11(月)●浜松一中の運動会で配られた紅白大福餅から、二二四五人が食中毒、四四人死亡。
- 12(火)●日本初の国際合作映画(独製作)「新しき土」の主演に原節子が決定、と新聞に。
- 13(水)●ローマ大に日本語講座開設と駐伊大使が通達。
- 14(木)●貴族院で津村重舎が「将校より兵卒が大和魂大きい」と発言(軍部激怒、15日議員辞職)。
- 15(金)●ダンスホール・フロリダに露出過多と警告。
- 16(土)●朝の点呼報告遅れたと近衛師団少尉が割腹。
  ●仏の詩人、ジャン・コクトー来日。
- 17(日)●大日本理容業連合会、発足。
- 18(月)●阿部定、愛人・石田吉蔵を殺害し陰部切断(阿部定事件。20日逮捕。12月、懲役六年の判決)。
  ●軍部大臣現役武官制、復活。
- 19(火)●満鉄前年度決算黒字は六割増の四九〇〇万円。
- 20(水)●中国国民政府、密輸に死刑を導入と決定。
- 21(木)●米大統領、日本対象の綿布関税引き上げ発令。
- 22(金)●豪、英製品優遇のため綿布対日関税引き上げ。
- 23(土)●民政・政友両党、選挙違反厳罰の緩和を要求。
- 24(日)●関脇双葉山、一一戦全勝で初優勝。
- 25(月)●中野正剛の東方会、政治結社の届け出。
- 26(火)●将校不足補充のため復活した広島陸軍幼年学校が入学者一五〇人の募集を開始。
- 27(水)●胸部疾患による兵役免除者の増加に、陸軍と文部省が対策協議。若者の二割が罹病。
- 28(木)●警視庁の飲食店一斉衛生検査で八割が「不良」。
- 29(金)●自動車製造事業法公布(国産化を推進)。
  ●思想犯保護観察法公布。保護司の監視下に。
- 30(土)●大日本電力と東部電力、正式合併を決定。
- 31(日)●帝国人造絹糸、スフの生産を開始。

影山光洋

◀▶皆既日食観測に8ヵ国が北海道集結(6月19日) 女満別などで日・英・米・中・印・豪・チェコ・ポーランドの学者が望遠鏡をかまえた。右は中頓別で日本班がとらえたコロナ。東京・銀座では街頭で観測する人も(左)。

朝日新聞社

▲京都・宇治川に新観月橋(6月9日) 旧橋は「都名所図会」にも描かれた歴史的建造物だったが、交通渋滞緩和のため架け替えられたもの。長さ約180、幅14メートル。写真は橋上で開かれた竣工式。

▶シュメリンク、ルイスを12回KO(6月19日) ニューヨークのヤンキー・スタジアムで行われたヘビー級戦に勝利、王者ブラドックへの挑戦権を獲得しドイツの英雄となった。

▶ゴーリキー死去(6月18日) 病死とされたが毒殺説も。68歳。戯曲「どん底」などで広く知られるソビエト文壇の指導者で、赤の広場で行われた葬儀には80万人が参列、スターリンも柩をかついだ。

ユニフォトプレス

▼仏人民戦線政府が成立(6月4日) ファシズムの脅威と世界的な不況の中、左派連合政権が発足。意欲的な改革を行ったが経済政策に成功せず、1年という短命に終わった。中央がブルム首相。

「国際写真新聞」

▼藤田嗣治の愛妻マドレーヌ夫人急死(6月29日) 早朝、脳血栓を起こした。まだ27歳。藤田とは渡仏中に知り合い、中南米取材旅行も一緒だった。「メキシコのマドレーヌ」はその時の作品。

昭和11年6月

1(月)●大阪放送局、歌謡番組「国民歌謡」を放送開始。
2(火)●山手線電車に京浜線電車が追突。五六人負傷。
3(水)●「退職積立金および退職手当法」公布。
4(木)●仏で第一次人民戦線内閣(首相ブルム)発足。
5(金)●参謀本部、戦争指導課を新設(課長・石原莞爾)。
6(土)●アジア各地への中継飛行場として、福岡県・雁の巣飛行場が完成。
7(日)●「会社四季報」(東洋経済新報社)創刊。
●国鉄が、東京—下関間一五時間を目標とする山陽線強化工事に着手、と新聞に。
8(月)●帝国国防方針改訂。仮想敵国・米ソに英中を加え、四ヵ国とする。
9(火)●林兼商店、大洋捕鯨㈱を設立。
10(水)●平沼騏一郎らの右翼団体・国本社、解散を決定。
11(木)●長野県の「満州信濃村」建設協議会、移住二〇〇家族の募集を開始。
12(金)●改組めぐり紛糾中の帝国美術院で、横山大観・梅原龍三郎ら一四人が辞表提出。
13(土)●北平(北京)の抗日学生団、永定門付近で鉄道爆破。
14(日)●川崎製鉄が請負新賃金制を採用、と新聞に。
15(月)●不穏文書臨時取締法公布施行。言論弾圧強化。
16(火)●一九日の日食で、一万人程度が本州から北海道へ渡る見こみ、と阿寒鉄道局が発表。
17(水)●新京浜国道(国道三六号線)開設の告示。
18(木)●片岡千恵蔵主演「赤西蠣太」封切。
●アマ天文家・五味一明、とかげ座新星を発見。
19(金)●皆既日食。北海道東北部で観測に成功。
●日食写真空輸の読売新聞社機、宮城県で墜落。
20(土)●藤山一郎歌う「東京ラプソディ」発売。
●東京音楽学校(現・東京芸大)に邦楽科開設。
●英マロー・レガッタで日本クルーが初優勝。
21(日)●愛知県八開村の木曽川で渡船転覆。八人水死。
22(月)●外務省編纂『大日本外交文書』刊行開始。
23(火)●閣議、新ロンドン軍縮条約への不参加を決定。
24(水)●東郷青児らの二科会、官展不参加を声明。
25(木)●政府、関税引き上げの豪に通商擁護法を発動。羊毛・小麦など五品目に輸入許可制を適用。
26(金)●渡辺はま子歌う「忘れちゃいやよ」発禁。
27(土)●内務大臣、内務省からの「衛生省」独立を検討と言明。
28(日)●満州里でソ連二個小隊が日本兵四人を拉致。
29(月)●徴兵忌避の家出激増で警視庁が厳重捜査指令。
30(火)●落語家・講談師二五〇人、愛国演芸同盟結成。

「現場」を歩く

永田町

竣工以来六一年、国会議事堂の〝閉鎖性〟を感じさせる空間

山本徹美

▲正面に向かって左に衆議院、右に参議院を配する。 但馬一憲

文京区
新宿区
中央本線
神田駅
千代田区
四ツ谷駅
国会議事堂
東京駅
有楽町駅
中央区
港区
新橋駅
山手線

昭和一一年一一月七日午前一一時、東京市麹町区永田町に完成した帝国議会議事堂の竣工式が開催された。小雨が降る中、全国から約二八〇〇人が参列。その顔ぶれは、近衛文麿貴族院議長や富田幸次郎衆議院議長をはじめとする貴・衆両院議員および経験者など、わが国政官界の主要関係者であった。

議事堂建設の詔勅は、古く明治一四年一〇月までさかのぼる。内閣にそのための臨時建築局が設置されたのが明治一九年、その翌年、建設場所を永田町と定めたが、いかんせん国家財政にまだ余裕がない。しばらくは仮議事堂を使うことにしたのだが、結局、その状態は四六年間にもおよんだ。大正七年議事堂のデザインを国民一般から懸賞募集、翌八年、宮内省技手だった渡辺福三の案が採用され、これに大熊喜邦・臨時議院建築局技手が手を加え、設計図ができあがる。

大正九年一月、地鎮祭の後、議事堂建設工事が開始。外装部分はすべて国産品を使用。鉄筋・鉄骨は八幡製鉄所の生産品で、約一万五三〇〇㌧。杉、檜、楢など木材は二四種類使用し、全国各地から合計約五〇〇〇立方㍍分を取り寄せ、同様に三七種類の大理石約二八〇〇㌧、花崗岩約二万五五〇〇㌧が集められた。投入した資金は二五七三万五九七七円。一七年間で、延べ二五四万二八七七人が建設に従事したのであった。

巨大な吹き抜けと狭い議場

国会議事堂へ行ってみる。参観受付窓口で手続きをすれば、誰でも見学できる。議事堂内に足を踏みこむと、天井が高いのに気づく。それがこの建物の威容さを体感させる。廊下には深紅の縁取りをした赤い絨毯が敷いてある。床は大理石だがその絨毯がクッションの役割をはたし、ふかふかで心地よい。

「絨毯は総延長約四㌔あり、毎年、傷んだ箇所を修繕しています。外装関係は昭和一一年に建築して以来ほとんど補修していません」(衆議院営繕課)

中央広間は一階から四階塔屋部分まで吹き抜けで、高さ三二・六㍍。現在、ほとんど利用されていない広間だが、法隆寺の五重塔がすっぽり入る大きさだという。なんとも巨大な「空き容量」である。

衆議院議場を、記者席の後ろにある傍聴席から見下ろした。意外と狭いような気がする。広さは約四五〇畳(七四三・八一平方㍍)あるが、五〇〇席がびっしりと埋まっている。衆議院の定数をこれ以上ふやすと、議場そのものを新調しなくてはならないという話を耳にしたことがある。三方を囲む記者席も一定間隔で真鍮製の名札入れが打ちつけてあり、ここにも定数と指定席があるようだ。参議院議場も同様に狭苦しく感じられた。廊下や中央広間と対比して議場はあまりに窮屈。「永田村」の閉鎖性はこの狭い議場からも生じるのでは、と私は感じた。

▲昭和11年11月7日、帝国議会議事堂の正面中央玄関前で行われた竣工式で、「君が代」を斉唱する参列者。

ベストセラー

隔離施設を舞台に生を問う 北條民雄の『いのちの初夜』

この年の暮れに刊行された北條民雄の『いのちの初夜』が大きな話題を呼び、たちまちベストセラーになった。

ハンセン病の宣告を受け、死と真正面から向かい合った著者の短編集だが、表題作は著者二二歳の時の作品。主人公の尾田高雄がハンセン病の隔離施設に入るところから始まる。当時、まだハンセン病は伝染性のある不治の病とされ、患者は完全に社会から隔離されていた。この作品もその隔離施設が舞台になっている。尾田はそこで、患者の一人であり重症患者の世話をしている佐柄木という男に出会い、目を見開かされる。佐柄木は重症患者を見てこう言う。

「人間ではありませんよ。生命です。生命そのもの、いのちそのものなんです。……新しい思想。新しい眼を持つ時、全然癩者の生活を獲得する時、再び人間として生き復へるのです」

このような深い洞察は、とても二〇代前半の若者のものとは思えず、作家・川端康成もこれを絶賛、作品集出版に力を貸した。そして著者・北條民雄はその作品集刊行の翌年、腸結核で亡くなり、さらに大きな衝撃を各方面に与えたのである。

ところで前年の第一回芥川賞を受賞できなかった太宰治だが、この年、周囲の協力もあって、初の作品集『晩年』を世に問うた。「魚服記」「道化の華」「ロマネスク」などがおさめられている。心身ともに落ちこんでいる時で、口絵の写真は、まさに晩年を迎えた作家であるかのような老けこんだものだった。

これと対照的な勢いを感じさせたのは雑誌「人民文庫」の創刊だった。前年の「日本浪曼派」創刊に対抗するかのように、作家・武田麟太郎が私財をなげうって刊行に踏み切った。この創刊号に、高見順の「故旧忘れ得べき」が掲載され注目を集めた。すでに別の雑誌に連載され、前年には芥川賞候補にあがった作品の続編なのだが、その前文で高見は、これは自分にとってゲロを吐き出したようなもので、褒められるような作品ではない、これを評価するような批評家は作品を読んでいないに違いないと挑発し、「人民文庫」の急進性をも印象づけたのである。

◀『いのちの初夜』(創元社、1円30銭)

日本近代文学館提供

▶『晩年』(砂子屋書房、二円)

▶「人民文庫」創刊号(人民社、25銭)

スターと名場面

片岡千恵蔵が二役を演じた傑作「赤西蠣太」が大評判!

片岡千恵蔵主演の「赤西蠣太」がこの年公開され評判になった。

伊達騒動に材を取った志賀直哉の小説を伊丹万作監督が映画化した日本映画初期の傑作で、千恵蔵が、赤西蠣太と原田甲斐の二役を演じている。赤西蠣太はド級武士をよそおうスパイ。原田甲斐は赤西を雇う側の高級武士で、最後には赤西をスパイと見破る。この二人は何から何まで対照的で、話し方ひとつとっても、赤西蠣太がぞんざいなら、原田甲斐は役者のような気取った発声。これを同じ千恵蔵がやるのだからなんとも痛快で面白い。そのほか、随所に映画ならではの喜劇が演じられ、笑いを巻き起こした。

マツダ映画社提供

▲「赤西蠣太」で、赤西(左・片岡千恵蔵)は、思いがけず奥女中の小波(右・毛利峯子)の心をとらえてしまう。

現代劇では、溝口健二監督が「浪華悲歌」を撮り、山田五十鈴の魅力を存分に引き出した。かわいらしさと蓮っ葉なところをあわせ持った娘の役で、和服も洋服も着こなして、新鮮な色気を漂わせた。

洋画では、H・G・ウエルズ原作のSF映画「来るべき世界」が公開された。一九四〇〜一九七〇年の荒廃した世界や科学万能の未来社会を特殊撮影で見せるなど、映画の新しい可能性を示した。

この年、ほかに次のような映画が公開されている。かっこ内はおもな出演者。

「人生劇場・青春篇」(小杉勇)

「有りがたうさん」(上原謙、桑野通子)

マツダ映画社提供

▶「浪華悲歌」でヒロインのアヤ子(左・山田五十鈴)は、妹(大倉千代子)と対照的な生き方を示した。

川喜多記念映画文化財団提供

▲「来るべき世界」で、理想社会の創始者とされる男を演じたレイモンド・マッセイ。

モノ語り'36

「自動首振型電気扇」「食パン焼」「スクリッパ」――技術革新で商品も"進化する"

▶**戦時下にあることを意識させる保険**　この頃さかんに売り出された金融商品に「徴兵保険」がある。徴兵されて入営する時や、陸海軍の兵籍に編入される学校へ入学する時などに、必要な経費に見あうだけの金額が支払われた。各社の競争も激しく、写真のような仕掛け玩具も宣伝材料に用いられた。これは慰問袋を持っている兵士が、下部を引っぱることによってバンザイの日の丸を掲げるというもの。

埼玉県平和資料館蔵　平野美津子

◀**ガスによるトースター**　ガス・エネルギーを何にでも応用しようと、東京瓦斯(現・東京ガス)は「食パン焼」を発売した。ガス七輪の金枠に立てかけて、パンをトーストする仕組み。焼き上がるまでに5分というものだった。

▼**首を振り始めた扇風機**　着々と進む"技術革新"は、家庭用の扇風機にもおよんだ。中央電機製作所(現・松下精工)がこの年、自社初めての扇風機として、直径二十数センチの「自動首振型電気扇」を発売したのである。ただし価格は25円と高価なものだった。　松下電器歴史館提供

◀**珍しいパッケージ入りビスケット**　おいしくて滋養に富むお菓子としてビスケットが一般的になったのは、大正年間のこと。しかしブリキ缶入りで、手軽に食べるお菓子というより、進物用のイメージが強かった。これをボール紙に蠟引きしたパッケージに入れて売り出し、ヒットさせたのが森永製菓のパッケージ・ビスケット・シリーズで、そのうちの「森永マンナ」は幼児用のビスケットとして人気を呼んだ。50銭。

ビスケットは戦時の貴重な食料

ビスケットは16世紀にヨーロッパから伝来してきた"南蛮渡来"の菓子だが、当時のヨーロッパにおいては、航海時などに用いるパン代わりの貴重な食品だった。

これが日本でも、日清戦争や日露戦争の時、その遠征時にかっこうの食料として重用され、その価値が認められた。

それと同時に、栄養価の高い菓子として家庭にも入るようになったが、写真の広告に見るごとく高級菓子であり、進物用の域をなかなか出られなかったのである。

宗家　西洋御菓子

東京両国若松町　風月堂米津松造

◀明治時代の新聞広告に現れた進物用ビスケット。

▶**両切りタバコの人気銘柄登場**　両切りタバコ「光」が専売局(現・日本たばこ産業)から10本入り10銭で発売された。初めは太陽に雲がかかっているデザインだったが、"国体明徴"に反するという右翼団体からの抗議があり、太陽と雲を切り離したというエピソードがある。

たばこと塩の博物館提供

◀**革靴で通学する子どものために**　この頃、私立の小学校などにかよう男の子たちがよく履いていた靴に、大塚商店(現・大塚製靴)の「スクリッパ」がある。紐を結ぶのは大変なので、ホックで簡単にとめられるようにしてあり、また、紐が通してあるように見える部分には弾力性を持たせ、足を包みこむような構造にしてあった。

クツのオーツカ資料館蔵　服部昌一郎

人物クローズアップ

阿部 定（三〇）

センセーショナルに報じられた血文字「定吉二人きり」の真意

◀犯行2日後の5月20日、逮捕直後の阿部定。逮捕時、すでに遺書5通が書かれていて、彼女は自殺する覚悟だった。

▲割烹「吉田屋」の主人、石田吉蔵。石田は42歳、妻があった。

昭和一一年五月一八日の午後三時頃、東京市荒川区尾久にある待合「満佐喜」で、四〇がらみの男の絞殺体が発見された。男の首には赤い細紐が巻きつき、局部が切り取られているうえに、左の大腿部に「定吉二人」、敷かれた布団のシーツには「定吉二人きり」と血文字が書かれ、さらに左腕には、刃物でなまなましく「定」と刻まれていた。男の名は中野区新井町の料理店「吉田屋」の主人・石田吉蔵（四二）。この日の朝から行方をくらました女は、そこで女中をしていた阿部定（三〇）であることがわかった。

事件は翌日の新聞に大きく報じられ、帝都に漂う「二・二六事件」後の緊迫感を打ち破る、かっこうの話題となった。

「待合のグロ犯罪／夜会巻の年増美人／情痴の主人殺し／滴る血汐で記す『定、吉二人』円タクで行方を晦す」

「東京日日新聞」（現・「毎日新聞」）朝刊の見出しである。

事件の当事者である阿部定は、明治三八年五月二八日、東京市神田区新銀町（現・千代田区神田多町）生まれ。生家は江戸時代から続いた畳屋で、何不自由なく育てられた。ところが、少女時代に家運が傾いたことから、彼女の人生は大きく変化する。手記によると、一七歳の時に男にだまされたのがきっかけで、以降、堕落の道を歩むことになったという。芸者や娼妓として富山、大阪、名古屋などを転々とした後、昭和一一年の二月一日から「吉田屋」に女中として入り、吉蔵を知ることになった。二人の仲は急速に深まり、一ヵ月ほど前から「吉田屋」を飛び出した二人は、市内各所を転々とした。一度は帰宅したが再び五月一一日から「満佐喜」に逗留し、愛欲の日々を送っていた。

事件発生から二日後の二〇日午後四時三〇分頃、定は品川駅前の旅館に潜伏していたところを逮捕された。切り取った吉蔵の局部はハトロン紙に包まれ、帯の間にしまってあった。「阿部定事件予審調書」によると、定は、今度石田と別れてしまえば、もうなかなか会えない。自分はそのことに耐えられないし、石田を殺して永遠に自分のものにするほかにない、と殺害を決意したのだという。

この事件は当初から新聞、ラジオでセンセーショナルに報じられ、〝お定旋風〟を巻き起こした。逮捕された定は、高輪署から捜査本部のある尾久署に移されたが、署前は群衆で埋まり、映画の照明やカメラのフラッシュが飛びかった。

阿部定事件についての著書もある作家の伊佐千尋氏はこう述べる。

「阿部定の行為は、特に稀なものではありません。それが、なぜこうも大きく取り上げられたかというと、当局の情報操作があったからだと思います。二月のロンドン海軍軍縮条約脱退と『二・二六事件』から人々の目をそらすため、この事件を利用したのではないでしょうか」

この年一二月、定に東京地裁で懲役六年の判決が言い渡されたが、紀元二千六百年奉祝の恩赦で減刑され、一六年五月出所。戦後は料理屋で働いたりしながら、時々マスコミや舞台にも登場した。

▲事件を起こした後、阿部定が「大和田なほ」の偽名で投宿していた高輪南町の旅館「品川館」。ここで逮捕された。 毎日新聞社

毎日新聞社

▲1936年9月5日、アンダルシア地方、コルドバの北部13キロにあるセロ・ムリアーノで撮影された「崩れ落ちる兵士」。兵士の名はフェデリコ・ボレル・ガルシアと伝えられる。

ロバート・キャパ/マグナム フォト

決定的瞬間

スペイン市民戦争を追ったキャパの記念すべき"一枚"「崩れ落ちる兵士」の衝撃！

一九三六年二月に誕生したスペイン共和国政府は、労働者や貧しい農民に支持された人民戦線の政府であった。貴族や教会（大土地所有者）、資本家たちはこの事態におそれをなし、資本の海外流出、工場の生産停止など、スペイン国内は騒然とした雰囲気の中にあった。ドイツ、イタリアのファシストと密接に結びついていた軍部は、人民戦線政府に対してクーデターを計画。こうして人民戦線対ファシストという構図のスペイン市民戦争が勃発したのだ。

同年七月一七日、スペイン領モロッコにおいて反乱軍の一部が行動を開始した。翌一八日早朝、カナリア諸島に左遷されていたフランコ将軍（四三）が「クーデターは国民運動である」とラジオで放送。たとえ人民戦線の労働者たちが抵抗するにしても、二、三日で全国を支配できると、フランコ将軍を中心とする反乱軍の幹部たちは予想していた。

しかしこのもくろみははずれた。七月一八日夜、反乱を知った共産党の女性指導者ドロレス・イバルリがラジオ放送を通じて「ノー・パサラン（奴らを通すな）」と訴えて市民を鼓舞。「ノー・パサラン」という言葉はマドリードやバルセロナなど全国の労働者の合い言葉となった。市民は、軍の駐屯地の武器庫を襲撃して銃を奪い、農民は古びた猟銃を持ち出し、女たちはファシストたちがかまえる機関銃の前に身をさらした。

このスペイン市民戦争は世界の自由主義陣営にも大きな影響を与え、フランス、アメリカ、イギリス、カナダなど実に五〇ヵ国以上の国々から五万人近くの国際義勇兵が集まり、「反ファシズムと自由のために」を合い言葉に、人民戦線政府のために銃を取った。ジョージ・オーウェル（英）、ジョン・ドス・パソス（米）、アーネスト・ヘミングウェー（米）、アンドレ・マルロー（仏）などの作家たちも銃を取って戦列に参加した。

パリにいた報道カメラマン、ロバート・キャパ（二二）も、スペインに入ろうとさっそく行動を開始し、八月の初旬にそのチャンスを得る。フランスの「ヴュ」誌の特別号で市民戦争を特集することになり、キャパもスタッフに加えられたのだ。彼がバルセロナに着いたのは八月五日だった。

バルセロナでキャパはバリケードの上で遊ぶ子どもたち、駅頭で前線に向かう兵士たちの姿を撮った。しかし実際の戦闘場面には遭遇せず、キャパは山岳地帯の激戦地アラゴンに向かう。ここでも戦闘は膠着状態におちいっていて、兵士たちが農民を手伝って小麦の刈り入れや脱穀をしている姿などを見ることになる。キャパは、勇敢にファシストと戦う人民戦線兵士の姿を求めていた。

さらにマドリードから反乱軍が支配するコルドバに向けて南下。そして九月五日、前線のセロ・ムリアーノという村の近くで記念すべき「崩れ落ちる兵士」が撮影された。

青い空、流れる雲、兵士が銃弾を受けてのけぞっている。写真は九月二三日発行の「ヴュ」誌に発表され、ヨーロッパに大きな衝撃を与えた。今日、この「崩れ落ちる兵士」は、実際の戦闘中での写真ではなく、演習時に兵士に依頼してポーズをとらせたものだという説もある。それにしても、キャパはこの一枚の写真で、報道写真家として大きな名声を得ることとなる。

美の出会い

柳宗悦一〇年来の悲願実現！ 民衆が生み出した傑作を集め日本民藝館が駒場にオープン

▲日本民藝館正面。五五〇坪の土地に二〇〇坪の建物が建てられた。大谷石が大量に使われている。

日本民藝館提供

昭和一一年一〇月二四日、東京市目黒区駒場町に、日本の民芸運動の創始者・柳宗悦（四七）の年来の夢だった日本民藝館が開館した。建物は柳自身の設計になる木造、白壁塗り、瓦屋根の堂々たる和風建築である。建設資金は、柳らの民芸運動に感銘を受けた倉敷紡績社長の大原孫三郎（五六）が、一〇万円をポンと寄贈したのがもとになっている。柳が陶芸家の河井寛次郎や浜田庄司らと語らって、高野山西祥院で「民芸」の美術館設立の構想を打ち上げた大正一五年以来、実に一〇年の歳月が流れていた。

開館の喜びを英文学者の寿岳文章は、昭和六一年の「民藝」四〇六号で、次のように回想している。

「本館が出来上がり、大時計が動き始めると、私は無性にうれしくて、会うほどの内外人に、もう民藝館へは行ったか、まだなら何をおいても是非行けとすすめてやまなかった。柳宗悦の直観と眼識によらずば絶対に実現不可能な美の世界が、そこに常住の場所を得ている。こう説明するのが私の大きな誇りであった」

柳の民芸運動を支持する多くの仲間たちが、寿岳と同様、日本の民衆の美意識に対し、大いなる誇りの気持ちを抱いたことであろう。だが、時代は日中戦争に突入する前夜である。人々の関心は思いのほか低かった。日本民藝館の学芸員・尾久彰三氏は語る。

「当時、一般の入場者は二～三人という日もありました。しかし、二～三ヵ月に一回行われた企画展には、浜田や河井ら仲間たち二〇～三〇人が集まり、活発な談論が繰り広げられました」

所蔵品は、おもに柳が京都に居をかまえてからの約一五年間に収集したもので、京都駅から貨車二〇両でもって、駒場に運ばれた。まだ民芸品が「下手物」と呼ばれ、骨董価値も低かった時代とはいえ、膨大な数の収集品である。柳は自分の収入のすべてを民芸運動に投じ、家計は声楽家である兼子夫人の収入でまかなわれていたという。

柳は明治二二年、維新政府のもとで海軍の基礎づくりに功績を残した柳楢悦の三男として東京・麻布に生まれた。明治四三年には志賀直哉、武者小路実篤らと文芸雑誌「白樺」を創刊し、宗教、哲学、芸術の論文を毎号寄稿していた。二六歳の時には、イギリス神秘主義の画家であり詩人のウィリアム・ブレイクについて大著を著すなど、執筆と猛勉強の日々を送っていた。柳の終生の仕事となる民芸運動に入りこんでいく契機は、こうした日々の中で不意にやって来た。

大正三年、後に朝鮮古陶磁の神様として尊敬されるようになる浅川伯教が、柳のもとにあったロダンの彫刻を見たいといって訪れたのである。この時、柳は、浅川から贈られた李朝の壺を見て、その美しさに驚嘆した。続いて柳は朝鮮を訪れ、伯教の弟・巧のもとに逗留。柳の朝鮮美術への関心は一気に高まった。朝鮮の無名の工人たちが生み出した美の世界に、柳は何の偏見も持たずに対面し、こうした美を生み出す人々を心から敬愛したのである。

ひるがえって柳の眼は、日本の無名の工人たちに向けられ、各地に残されている民芸の美を発見していくことになる。こうして柳は、昭和六年に月刊誌「工芸」を創刊し、全国の民芸品を次々に紹介するとともに、その保護と新作活動を支援していった。

「一国の文化程度の現実は、普通の民衆がどれだけの生活を持っているかで判断すべきであろう。その著しい反映は、彼らの日々の用いる器物に現れる」と日本民藝館の案内に記した柳は、故国の栄誉のために民藝館の存在意識を高らかにうたい上げている。ものが機械により大量生産される時にこそ、伝統のある、健康な美を持った民芸が生かされることを、柳は切に願っていたのである

大阪市立東洋陶磁美術館提供

▲染付辰砂蓮華文壺。高さ44センチ。朝鮮の浅川伯教のもとで、この壺を見た柳は、日記に「人体の美さえ暗示する」と記し、「宗教の域に達し得た」「永遠なもののひとつである」と絶賛している。

日本民藝館提供

▲昭和8年、東京・小石川の柳宗悦邸にて。左から村岡景夫、柳兼子（宗悦夫人）、ブルーノ・タウト、柳宗悦、河井寛次郎、バーナード・リーチ。

▲日本民藝館には、陶磁器、染物、織物、金工、漆器、民画など約1万7000点が収蔵されている。常設展示のほかに、時々、沖縄やアイヌ民族などの民芸展も開催されている。

日本民藝館提供

20世紀博物館

シルク博物館 神奈川・横浜市

生きたカイコや色とりどりの繭など絹の不思議な世界を見る

桑原茂夫

シルク博物館提供

▲着物だけでなく、各種衣装が展示されていて、シルクの世界の広いことをあらためて感じさせられる。

昭和三四年、横浜開港一〇〇年を記念して、貿易の花形だったシルクに焦点をあてた「シルクセンター国際貿易観光会館」が設立され、その一事業部門として「シルク博物館」が生まれた。シルクの世界をいろいろな角度から見ようというもので、したがって生きたカイコも展示されているのである。そして、色とりどりの繭！　カイコの作る繭といえば、白いものと思っていたから、これでまず驚かされる。中でも、カイコがガラスケースに貼りついたまま作った大ぶりの淡いグリーンの繭は美しく、異様な感じさえして目を引きつけられた。

養蚕から製糸、織物まで含めて〝絹ひと筋〟で四〇年という、シルクセンター博物館部の小泉勝夫部長によると、これは〝天蚕〟という種類のカイコが作る繭で、ほかのカイコの多くが中国を原産地としているのに対して、この天蚕は日本列島原産のカイコで、その数は少ない。希少であることから「繊維のダイヤモンド」という異名を持つが、価格も、普通の絹糸が、キロ単価五〇〇〇円だとすると二〇万円もする高価なものだ。染色しにくいという弱点を抱えているのだが、なにしろほかの絹糸には見られない、独特の風合いがあって珍重されているのである。

▶品種改良技術の進歩とともに変化してきた繭を集めたコーナー。

▶繭のいろいろ。左上が天蚕の繭。上段に並んだ繭と中段右が〝野蚕〟、つまり野生のカイコの作る繭で、そのほかが〝家蚕〟の繭である。

染色しにくいという性質もかならずしも弱点とばかりは言えない。そのまま織れば、白に淡いグリーンが微妙にまじる洒落た生地になるからだ。式服用の高級ネクタイにこの生地を使ったものがあり、一本二万円近くするそうだが、根強い人気を持っている。

▼生きたカイコが展示されているコーナー。今は餌も桑の葉ではなく、配合飼料である。

ところで天蚕に限らず、シルクは衣服の素材として大きな特質を持っている。肌触りがよく（肌になじみやすい）、機能面では、保温性に富んでいながら湿気をこもらせない。まさに日本の風土に適しているのだ。

最近は「ハイブリッドシルク」と言って、化学繊維を芯にしてシルクを巻きつけるなどの工夫を凝らした、新しいシルク繊維もある。これは、シルクの風合いや触感を失うことなく、摩擦に弱いとか皺になりやすいといった欠点を克服した繊維である。展示されているものを見ても、天然のシルクと区別がつかない。

一方で、今日本の養蚕業が存亡の危機に立たされているという事実も示されている。中国の安い繭にすっかり押され、今や、養蚕農家は、全国で七〇〇〇戸。これは、戦後の全盛時なら、ひとつの県どころか、ひとつの郡レベルの数字で、ほかの多くの分野におけるのと同じように、ここでもモノを作る現場が急激に失われようとしている。この博物館は、シルクの技術やファッションばかりか、産業としての盛衰の歴史まで描き出しているのである。

●シルク博物館
横浜市中区山下町一番地
☎〇四五―六四一―〇八四一
JR桜木町駅または関内駅から徒歩一五分。横浜駅、桜木町駅から市バス多数。県庁前下車、徒歩三分。大桟橋下車、徒歩一分
開館時間＝九時～一六時半　休館日＝月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始
入館料＝一般三〇〇円

中国の転換点となった13日間！
ついに蔣介石が「内戦停止」「抗日一致」に同意
驚愕の「西安事件」と張学良の悲劇

▲この年12月、東北軍に演説をする張学良。張は蔣介石の「安内攘外」政策と、共産党の「内戦停止・一致救国」路線の間で悩み、ついに蔣介石監禁に踏みきった。

玄宗皇帝と楊貴妃のロマンスの舞台として知られる陝西省西安市臨潼の華清池。六二年前、この地で張学良が蔣介石国民政府主席を監禁し「国共合作」を迫った。この「西安事件」は近代中国史の転換点になる出来事だったが、その立て役者で〝抗日の英雄〟とうたわれた張を待っていたのは、あまりにも過酷な運命だった。

最後の〝強硬手段〟として独裁者の蔣介石を監禁へ

一九三六年一二月一二日は土曜日だったが、中国・陝西省の西安市民は早朝からものものしい武装兵に眠りをさまされた。国民党政府に反旗をひるがえした地方部隊の東北軍と西北軍が西安市内の要所――政府機関、放送局など――を襲って銃撃戦を繰り広げていたからである。

危険は、西安郊外の華清池にいた蔣介石国民政府主席（四九）にも迫っていた。

午前六時頃、東北軍は蔣介石の宿舎である華清宮の正門に突入。敷地内にあるいくつもの池や橋を越えて、寝室がある五間庁まであと一歩と近づいていた。

後に、世界中に衝撃を与えるこの「西安事件」の首謀者は当時、国民政府の西北地区共産党掃討副司令官をつとめていた張学良（三五）。「安内攘外（国内の敵・共産党を討ってから関東軍と戦う）」を主張していた蔣介石に対し、張は以前から「内戦をやめて、挙国一致で抗日運動に立ち上がるべき」と訴えていた。

聞き入れる余地のない蔣介石に業を煮やした張は、西北軍の楊虎城将軍と申し合わせ、蔣介石の決意を変えさせる〝最

後の強硬手段〟に打って出たのである

張学良配下の孫銘九中佐が蒋の寝室に着くと、ベッドはもぬけのから。蒋介石は、パジャマ姿で窓を飛びこえ、一足違いで裏側にある高さ六二〇メートルの驪山へ逃れていた。午前九時頃、二時間以上におよぶ山狩りのすえに、山の中腹で手足が切り傷だらけの蒋介石が発見された。

「君が私の同志なら今すぐ撃ち殺してくれ」と言う蒋介石に、「張学良副司令官の命令で、蒋介石委員長を西安までお連れし、抗日戦争について相談していただくために参りました」と答える孫中佐。

こうしてクーデターを起こし、部下に蒋介石を監禁させた張学良は、楊虎城と連名で次のような声明を全国へ打電した。

「蒋介石委員長が民衆を放棄し、国を誤る罪は重い。学良は涙をふるって諫言したが、たびたび拒絶され叱責された。蒋先生に最後の勧告を行い、その身の安全を保障しながら反省をうながしたい」

この声明とともに、「内戦の停止」「諸党派共同の救国」などの八項目を蒋介石に要求すると明らかにしたのである。

中国の事実上の国家元首である蒋介石が、部下の張学良に監禁されるという〝大事件〟を世界に先がけてスクープしたのは、日本の同盟通信社の松本重治上海支局長（三七）だった。孔祥熙行政院副院長の秘書・喬輔三からの情報で事件を知った松本は一二日夜に東京へ打電。翌日にはニュースが世界中を駆けめぐった。

生誕50年祝賀会で。前列左から張学良、宋美齢（蒋介石夫人）、蒋介石、閻錫山。 毎日新聞社

みずから捕らわれた張学良の〝謎の行動〟

一九三〇年代の中国は、混沌とした状況にあった。蒋介石の国民党政府と毛沢東率いる共産軍との内戦状態の中で、一九二四年には「第一次国共合作」が成立したものの、翌二五年三月に分裂。それ以後、蒋介石の執拗な抗共政策もあって、各地で内戦が続いていた。

▲一二月一四日、オーストラリア人のルイナーが、夫の救出を願う宋美齢の親書をたずさえて張学良（写真左）を訪れた。

内戦の混乱に乗じて武力進出を進めたのが関東軍である。一九二八年の張作霖（満州＝中国東北部＝の大軍閥で張学良の父）爆殺事件に続いて、三一年の「満州事変」、三二年の「満州国」建国、三三年には熱河省を攻略する。関東軍が波状攻撃を仕掛けても共産党討伐にこだわる蒋介石に、民衆の不満は「対日無抵抗政策に反対！」とピークに達していた。

「政府と世論が真っ向から対立する中で『西安事件』を起こしたのが関東軍に父を殺され、故郷の満州からも追われていた張学良でした。彼は幼い頃からの英才教育で近代性と合理性を身につけた東北軍の若きトップ。父親を殺された後も、〝判官びいき〟的人気と、富国強兵策による近代兵備を誇り、蒋介石も一目おく存在だった彼は、抗日を主張する民衆や部下の声に傾倒していったのです」

と語るのは中国文学者の松本一男氏だ。

ところが、一六日に南京の国民政府が張学良の討伐を決定。一方、東北軍内部でも蒋介石処刑の声が出始める中で、蒋介石は「内戦停止」「一致抗日」を拒み続けた。困りはてる張学良に調停役をかって出たのが事件後、延安から西安へ駆けつけた共産党の周恩来（四〇）である。

「周は二四日に蒋と会見し、妥協策を提示して『内戦停止』と『一致抗日』の基本的合意を約束させました。一説によると周は、『蒋介石を釈放せよ』という〝スターリン電報〟を受けてこうした行動を取ったとも言われています」（松本氏）

こうして蒋介石は翌二五日に釈放され、迎えに来ていた宋美齢夫人とともに南京へ帰るのだが、この時、後に「西安事件」の謎と言われる不思議な出来事が起きる。

自分への敵意が渦まく南京へ蒋介石を送って行くと張学良が言い出したのだ。

事実、「西安事件」の終結とともに、周恩来や側近の反対を押し切って国民党政府へ同行した張は、蒋介石の威信を傷つけた反逆者として捕らわれの身となった。

「西安事件」は、中国で「第二次国共合作」や抗日戦線統一が成立する大きな転機となる出来事だった。その〝立て役者〟である張学良は軍法会議にかけられ、禁固一〇年、公民権停止五年を言い渡されたが、その後も半世紀以上にわたって国民党の厳重な監視の下で過酷な幽閉生活を送り、歴史の表舞台から〝抹殺〟されるのである。

▲西安事件直前の1936年11月、洛陽での蒋介石

南京行きを選んだ理由について、張学良は後にこう答えている。

「蒋介石先生を送って行ったのは、南京で罰を受けるためでした。処刑されるつもりだったんです。軍人として、自分でしたことは責任を取りたかった」と。

蒋介石、周恩来などの事件関係者がすでに鬼籍に入り、事件の全容はまだ明らかにされていない。一番のキーパーソンである張学良は台湾での長い軟禁生活を晩年に解かれたが、事件の核心については今も口を閉ざしたまま、移住先のハワイで夫人と余生をすごしている。

蒋介石（1887〜1975）
軍人・政治家。日本の陸軍士官学校に留学。一九一一年辛亥革命に参加。二七年、四・一二クーデターを断行、南京に国民政府を樹立。一九三一年の「満州事変」後も「安内攘外」の譲歩政策をとる。

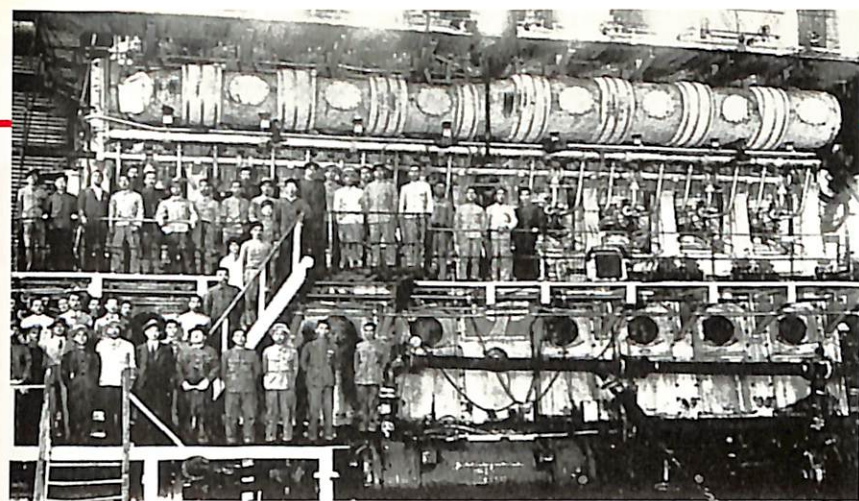
張学良（1901〜 ）
軍人・政治家。一九二八年、父・張作霖が爆殺された後、東北地区の実権を掌握。蒋介石の対日妥協策で下野、外遊した。三四年帰国。中国共産党の抗日民族戦線に同調、「西安事件」を起こす。

▲中国共産党は、蒋介石を抗日統一戦線の先頭に立てるという方針を固め、事件解決のため、（左から）秦邦憲、葉剣英、周恩来を西安に派遣した。

三菱重工業長崎造船所提供

◀**新型ディーゼル・エンジン完成（7月）**三菱重工業長崎造船所が船舶用に開発していたＭＳＤ72型1号機で、8気筒8000馬力。以降、太平洋戦争前まで大型船舶用ディーゼル機関の主流となった。写真が完成したエンジン。

毎日新聞社

▲**島崎藤村ら国際ペン大会へ（7月16日）**開催地はアルゼンチンのブエノスアイレス。9月5日からの大会に出席するため神戸を出発した。日本は初の参加。前列中央左が日本ペンクラブ会長の藤村、右が副会長の有島生馬。

「国際写真新聞」

▶**戒厳令解除（7月18日）**「二・二六事件」の翌日から東京には軍政が敷かれていたが、事後処置が完了、約5ヵ月ぶりに旧に復した。写真は戒厳司令部を去る岩越戒厳司令官。

朝日新聞社

◀**樋口一葉の記念碑竣工（7月26日）**没後40年を記念。代表作『たけくらべ』の舞台となった東京・下谷の竜泉寺町に建立された。除幕式には佐佐木信綱ら多数の関係者が参列。

▼**朝鮮南部で大水害（8月27日）**台風による豪雨のため、慶尚南道を中心に大被害。犠牲者は2200人を超え、家屋の倒壊・流失も3万3000戸に達した。写真は江原道江陵邑。

気象庁提供

▶**スペイン内戦（7月18日）**フランコ将軍がクーデター宣言を放送後、各地で反乱軍が蜂起。共和国軍支援に立ち上がった市民も多く、全土が戦場と化した。写真はモロッコの反乱軍。

アメリカ国立公文書館　毎日新聞社

昭和11年7月

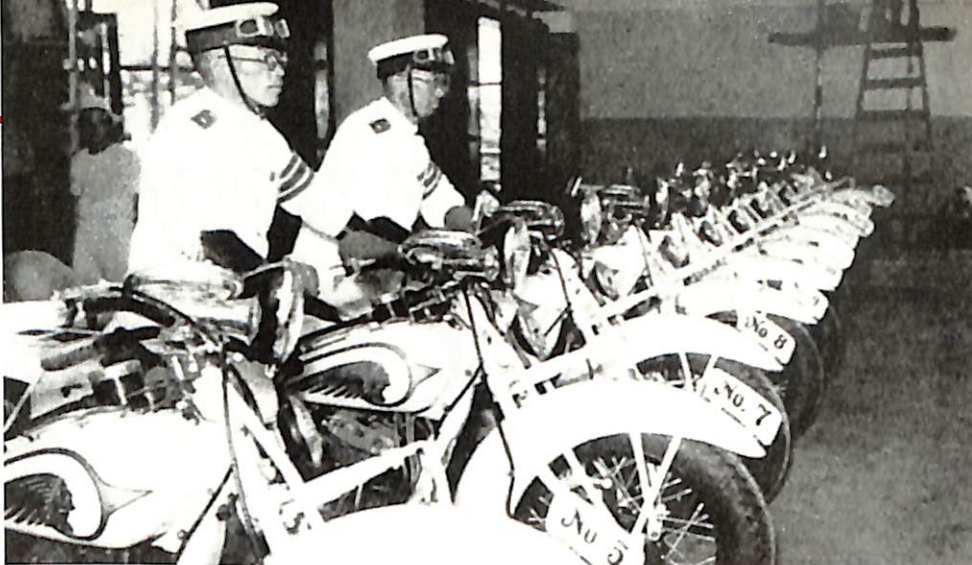
1（水）●山中電機、時計つきラジオ「テレビアン」発売。
2（木）●鉄道省、本年度開業予定の二二路線、二八二・三キロを発表。
3（金）●永田軍務局長殺害犯・相沢三郎の死刑執行。
4（土）●米独立記念日の日米交換放送で三浦環の独唱放送。横浜では祝賀花火大会に観衆二〇万人。
5（日）●「二・二六事件」判決。一七人に死刑（12日、村中・磯部をのぞく一五人を処刑）。
6（月）●炭鉱での女子深夜労働を完全禁止と内務省令。
7（火）●築地本願寺で、日本で死去した外国人のための「国際盂蘭盆会の夕」開催。
●「朝日新聞」家庭欄に洋装下着の着用法掲載。
8（水）●鮮魚買出人連盟、築地の卸売会社合併に反対。
9（木）●政府、独の対中国武器輸出に抗議と決定。
10（金）●平野義太郎ら講座派学者、治安維持法を拡大適用され一斉検挙（コム・アカデミー事件）。
11（土）●東京・三田署が博徒摘発。二日来一〇七人検挙。
12（日）●ペルー政府、日本人帰化禁止令を公布。
13（月）●電気協会、政府の電力国営案に反対決議。
14（火）●木材からアルコールを製造する独特許買収し商工省などが「満州国」に会社設立、と新聞に。
15（水）●米で麻酔分娩の是非めぐり論争、と新聞に。
16（木）●「満」ソ国境紛争に関し第一回日ソ会談開催。
17（金）●大阪府、中学校入試科目を国史一科にと発表。
18（土）●「二・二六事件」以来の戒厳令、解除。
●スペインでフランコが蜂起、内戦が始まる。
19（日）●「一県一行」、大蔵省が地銀合同検討と新聞に。
20（月）●東京・横浜・川崎三市連合の防空演習始まる。
21（火）●「東京株式取引所改革案」報道で株価大暴落。
22（水）●愛知県旭村に東大付属水産実験所新設と公布。
23（木）●台風で九州全域に被害。演習の潜水艦も損傷。
24（金）●東京で防護団員四〇〇人が弁当から食中毒。
25（土）●上野動物園の黒豹が逃走。捜索隊動員し捕獲。
●国内トマト生産量が五年で四・五倍と新聞に。
26（日）●山形県藤島町で古代舟の発掘開始（五隻発掘）。
27（月）●南洋拓殖株式会社令、公布。
28（火）●文部省が運動名称を日本語化と新聞に。ドッジボールが避球、リレーが継走など。
29（水）●大阪の労農団体協議会が社会大衆党に支持申し入れ（以後労働・農民団体の申し入れ続く）。
30（木）●日本放送協会、社大党の安部磯雄の放送用演説内容の変更要求。安部は出演を拒否。
31（金）●国際オリンピック委、一九四〇年の第一二回大会開催地を東京と決定（13年、返上）。

証言・あの日この日
水上滝太郎（48）

6月18日（木）　〈今や二人寄れば、必ず定吉二人キリ論である。役所でも、／学校でもカフェでも、何の心配もなく、自由に気儘に、／極めて明朗にこれを論じ、哄笑する事が出来るのである。この意味において、私はこの怪奇事件おもいもかけない世直しの功徳を持ち、人助けをした事を認むるにやぶさかではない。彼女の刑よ軽くあれ〉（水上滝太郎『貝殻追放』）

当時、明治生命常務だった作家の水上滝太郎は、阿部定事件を、娯楽として楽しむ庶民のしたたかさを擁護する。この事件は暗い世相を吹き飛ばすような怪事件だったため、巷では「あれは無罪です。事実無根じゃありませんか」などと駄洒落のネタになった。水上は、いたるところで、そうした庶民による犯罪の娯楽化を見聞して、犯罪の思わぬ「世直し」効果に気づいた。（山崎行太郎）

朝日新聞社

▲**「白バイ」デビュー（8月18日）**警視庁では交通事故対策として取締り強化を打ち出し、オートバイの車体を夜でも目立つように赤から白に変えた。台数も15台から33台にふやされた。

毎日新聞社

▲**国産初の捕鯨母船「日新丸」進水（8月1日）**神戸の川崎造船所が新記録の157日で完成。約1万7000トン。10月に初出漁、125日間の南氷洋操業で1116頭の鯨を捕獲した。

▶**「新交響楽団」常任指揮者にローゼンストック（8月）**前ニューヨーク・メトロポリタン歌劇場専任指揮者という実力者。その指導により、新響の技術は飛躍的に向上した。

▶**成都事件起こる（8月24日）**日本領事館再開反対で険悪化した中国の成都で、新聞記者らが襲われ二人が死亡した。日本はこの事件を利用、反日運動中止などを要求した。写真は現場。

◀**木炭車試乗会（8月7日）**限られた石油資源を軍事用に確保するため、8月4日の閣議でその奨励を決議。小川郷太郎商相（右）がこの日官邸で試作車を実見、燃料費がガソリンの4分の1など、太鼓判を押す性能だった。

昭和11年8月

1（土）●第一一回ベルリン五輪、開幕。
●ハエとりデー。東京で九八七一万匹捕獲。
2（日）●同盟通信、五輪写真の無線電送に成功。
3（月）●静岡県の教育疑獄で小学校長ら四五人検挙。
4（火）●閣議、木炭車奨励を決議（7日、官邸で試乗会）。
5（水）●西田修平・大江季雄、五輪棒高跳びで二・三位。
6（木）●田島直人、五輪三段跳びに世界新で優勝。
7（金）●五相会議、臨戦体制へ「国策の基準」を決定。
8（土）●関東軍、第六次満州移民計画発表。戸数一万。
9（日）●孫基禎、五輪マラソンで優勝（朝鮮の「東亜日報」、孫の胸の日の丸を抹消し無期停刊に）。
10（月）●直木賞に海音寺潮五郎「天正女合戦」など決定。
11（火）●五輪水泳二〇〇メートル平泳ぎで前畑秀子が優勝。
●政府、華北統制の「第二次北支処理要綱」決定。
12（水）●白米商組合、安価な朝鮮白米の不売を決議。
13（木）●缶詰隆盛、国産だけで二百二十余種と新聞に。
14（金）●産業組合中央金庫、農家に肥料資金貸出決定。
15（土）●英仏、スペイン内戦不干渉を決定。
16（日）●新交響楽団の常任指揮者ヨセフ・ローゼンストック、ウィーンから来日。
17（月）●長島愛生園でハンセン病患者千余人が、自治制確立、園長解任を求めてハンストに突入。
18（火）●「満州国」皇帝・溥儀の弟の溥傑、千葉歩兵学校留学のため来日。
19（水）●共和派のスペインの詩人G・ロルカ、暗殺。
●神伝派自然流水泳師範の日大生が、連続水泳三五時間の世界記録を樹立。
20（木）●全国中等学校野球大会で岐阜商が初優勝。
21（金）●民政党、庶政一新に関する国策を首相に手交。
22（土）●日比谷公園でオリンピック映画映写会開催。
23（日）●樺太の豊原町で施政三〇周年記念式挙行。
24（月）●中国の成都で、日本人記者二人が抗日中国人に殺害される（成都事件）。
25（火）●女性五団体、結婚退職金支給要求を決議。
26（水）●日本アルプス登山者が五万人突破と新聞に。
●駐日スペイン公使、フランコ支持声明（免官）。
27（木）●朝鮮南部で豪雨。二二〇〇人死亡・行方不明。
●鐘紡神戸工場のパート雇用を正式に認可。
●大蔵省、頼母子講規制を強化し許可制を実施。
28（金）●高文合格の地方採用組に第一回本省採用試験。
29（土）●全評など、社大党に人民戦線統一申し入れ。
30（日）●院展の入選発表。絵画の二割は初入選。
31（月）●日本百貨店組合、百貨店法制定反対を陳情。
●ソ連、北樺太油田試掘期限の五年延長を承認。

国際写真新聞

▲パリ・オペラ座火事(9月13日)深夜1時頃出火。17世紀に創設、1875年にフランスの代表的歌劇場としてオープンし、広大・壮麗を誇っていた舞台と2300人収容の客席の大半を焼失した。

▼帝国在郷軍人会、公的機関に(9月25日)半官半民の機関が、陸・海軍大臣所管の組織として軍部の直接指導下に編成された。会員300万人余が、戦中の国民総動員にはたした役割は大きかった。

毎日新聞社

▲サービスガール花盛り(9月)女性が活躍するサービス業が一層分化、就職先として女性の人気を集めた。写真は東京・日比谷の音楽喫茶「美松」のレコードサービスガール。喫茶店大流行を背景に生まれた新しい職業だった。

毎日新聞社

毎日新聞社

◀▲神戸沖で大観艦式(10月29日)御召艦「比叡」上の天皇が連合艦隊百余隻を親閲した。上は供奉艦「足柄」の夜間電飾。左は26日、軍艦を見学する国防婦人会の幹部たち。

毎日新聞社

▶「ひとのみち教団」弾圧(9月28日)大阪府特高が教祖・御木徳一を検挙。天照大神信仰を不敬罪とし翌年解散に追いこんだ。写真は教団の捜索、右から二人目が教祖を継いだ息子・徳近。

毎日新聞社

昭和11年9月

1(火)●成都事件のため第三艦隊に長江待機を発令。

2(水)●台湾に武官総督復活。海軍大将・小林躋造就任。
●第一回全日本グライダー大会、霧ケ峰で開催。

3(木)●広東省で日本人商店主殺害(北海事件)。

4(金)●果物出まわる、デラウエアは一〇匁二〇~二五銭、洋梨は一個一〇~二五銭、と新聞に。

5(土)●坪田譲治「風の中の子供」、「朝日新聞」に連載開始。
●満州開拓移民の花嫁候補三十余人、出発。

6(日)●東都バス争議団員家族の葬儀に参列した百数十人が帰途にデモ決行。一〇人検挙。

7(月)●内務省、女子の結婚退職に手当支給と決定。

8(火)●内務省、伏字悪用の書籍・雑誌取締り強化。

9(水)●二七ヵ国がスペイン内戦不干渉委員会設立。
●日活など四社、松竹に対抗する提携協定調印。

10(木)●陸軍省、陸軍工廠労働者の組合加入を禁止。
●第一期満州移民五ヵ年計画。一三万戸移住で大蔵・拓務両省の方針が一致。

11(金)●大阪市立美術館、開館。

12(土)●満鉄浜綏線で抗日軍が列車襲撃。九〇人死傷。

13(日)●大蔵省が酒精の製造販売を専売化、と新聞に。

14(月)●豊田自動織機、トヨダAA型セダンを発売。三三八九cc・六二馬力で、最高時速一〇〇㌔。

15(火)●北海事件に海軍は実力行使方針。陸軍非協力。

16(水)●大阪工業試験所が合成ゴム製造、と新聞に。

17(木)●豪で世界初のラジオ日本語講座開始と新聞に。

18(金)●上野動物園へジャワからオランウータン寄贈。

19(土)●漢口日本租界で巡査射殺(漢口事件)。
●関門海底トンネル着工式、門司市で挙行。

20(日)●朝日新聞、携帯用写真電送機の実用に成功。

21(月)●米漁業組合、日本漁船のアラスカ進出に反対。

22(火)●尋常小教員給与を全額国庫負担と内務省決定。

23(水)●秋田県横手町で「若勢市」。少・青年が作男として約四ヵ月間雇われる。相場は平均米五俵。

24(木)●日活が倒産し解散(太秦発声に吸収)。

25(金)●帝国在郷軍人会令公布。軍の公的機関となる。
●巨人の沢村栄治、初の無安打無失点を記録。

26(土)●仏、平価切り下げと、金本位制離脱を決定。

27(日)●市電二十五周年記念博覧会開催中の東京・高島屋、夜九時まで営業し記念特売。

28(月)●「ひとのみち教団」の初代教祖・御木徳一検挙。
●国際テニス連盟、アマ・プロ対戦禁止と通達。

29(火)●東京五輪客めあてに銀座で英会話の速成講習。

30(水)●日本初の「赤ちゃん学校」、東京嬰児学校開校。

◀国際通運(丸通)が宅配便宣伝(10月)鉄道省と提携して小口貨物を荷受人へ直接届ける「宅扱」業務を前年10月開始、かたわら宣伝隊を組織、さかんにその販促活動を行った。写真は岐阜市内の一行。

中日新聞社

▼日本隊、ヒマラヤ初登頂(10月5日)堀田弥一を隊長とする立教大学登山隊4名が、インド北部にあるヒマラヤ山脈の高峰ナンダコット(標高6867メートル)を征服。

立教大学図書館提供

◀魯迅没(10月19日)中国の偉大な作家・思想家の死を悼んで、多数の上海市民がその葬列を見送った。死因は持病の喘息の悪化。55歳。左翼作家連盟の中核で『狂人日記』『阿Q正伝』などの作品で社会悪を追及、人民の意識改革を訴え続けた。

▼湘南パーク・ウェイ開通(10月23日)相模川に架かる湘南大橋新装で、相模湾ぞいに走る県道片瀬一大磯間17キロが全通。昭和28年には国道134号線となった。

朝日新聞社

橘道彦提供

▲「五・一五事件」の橘孝三郎、特別出獄(10月26日)無期懲役で収監されていたが、母危篤のため12時間だけ許可。写真は水戸の愛郷塾で5年ぶりの対面。

▶大阪から高知・松江・富山に定期便(10月1日)日本航空輸送が各1日1往復運航。写真は高知便のフォッカー・スーパーユニバーサル旅客機。運賃は19円。

毎日新聞社

昭和11年10月

1(木)●名古屋・松坂屋、男女店員の服装を洋服に統一。

2(金)●樺太庁、自作農移民一五〇戸募集と新聞広告。

3(土)●北海道石狩平野で陸軍特別大演習開始。

4(日)●小山敬三・硲伊之助ら四人、二科会脱会声明。

5(月)●東京憲兵隊、ソ連大使館に陸軍機密文書を売りこんだ男を大使館からの通報で逮捕。

6(火)●自転車盗難が増加、前年は四万台と新聞に。

7(水)●五輪客向けに西洋野菜の栽培始まると新聞に。
●九州初のターミナル・デパート、岩田屋が福岡市に開店。
●スペイン人民戦線派、バスク自治政府を樹立。

8(木)●都市美協会、どぎついネオンサイン制限の建議案提出を決定。

9(金)●東京で中学生一万人余参加し、大軍事演習。

10(土)●日本婦人禁煙同盟、発足。

11(日)●東京で東北六県主催の第一回東北物産見本市。

12(月)●福岡県綱分炭坑でガス爆発。三九人死亡・不明。

13(火)●山田耕筰、仏政府からシュバリエ勲章を受章。
●東京市内の小学生の死因一位は結核と新聞に。

14(水)●内閣情報委員会、「週報」の発行を開始。

15(木)●山田五十鈴主演「祇園の姉妹」封切。

16(金)●貴族院制度改革の調査会官制要綱を閣議決定。

17(土)●橋本欣五郎、大日本青年党を結成。

18(日)●全日本学生射撃連盟の創立第一回選手権大会。

19(月)●内務省、六~一〇年の自殺統計発表。手段は毒物に次ぎ噴火口投身、年齢は二〇代が最多。

20(火)●閣議、電力国家管理案を承認。
●第一回結核予防国民運動振興週間始まる。

21(水)●英、日印通商条約(9年調印)の廃棄を通告。

22(木)●青森県新城村のハンセン病療養所北部保養院から出火。病棟二三棟を全焼。

23(金)●大日本アマチュア・フェンシング協会、発足。

24(土)●柳宗悦ら、東京に日本民藝館を開館。

25(日)●ヒトラー、伊のエチオピア併合承認。ベルリン・ローマ枢軸が成立。

26(月)●国境紛争処理の第三次満州里会議開催。

27(火)●東京五輪に備え全関東吹奏楽団連盟が発会式。

28(水)●重爆撃機二〇万円、戦車八万円、戦闘機七万円、小銃五〇円など、兵器価格が新聞に。
●トルコ、日本・トルコ貿易協定廃棄を通告。

29(木)●米・カナダなど向け紀州みかん、七五万箱の輸出契約が成立し、近々出荷と新聞に。

30(金)●松竹、日活の債務七〇〇万円引き受けを決定。

31(土)●前鉄相・内田信也、鉄道省疑獄で召喚される。

「国際写真新聞」

▲ルーズベルト、大統領再選(11月3日)全米48州中46州を取り圧勝、民主党政権を維持した。54歳。世界大不況後の舵取りを担った第1期目はニューディール政策を断行、その成果が圧倒的支持につながった。

▼水谷八重子の始球式(11月12日)東京・日本橋の浜町公園で演芸界が野球リーグ戦。歌舞伎の百年軍、落語の睦軍、新派のベア軍、幇間軍などが参加。

▲日独防共協定成立(11月25日)秘密付属協定で東西からソ連を牽制することを定め、大陸政策の有利な展開をねらった。写真は翌日、東京・銀座のビルに出た祝賀の両国国旗。

▲尾去沢ダム決壊(11月20日)秋田県にある三菱鉱業の鉱滓溜池で、連日の降雨と沈殿物の圧力が原因。硫化銅など有害物質を含む泥水が一気に流出し、家屋205棟が流失、死者336人、行方不明44人を出した。

毎日新聞社

▲阿部定事件公判開く(11月25日)殺した男の局部を切り取った猟奇事件として注目され、傍聴人多数が詰めかけた。衝動的だった点が認められ、東京地裁は懲役6年の判決。

◀綏遠事件勃発(11月14日)内蒙古騎馬軍団が、関東軍支援下に中国・綏遠省を攻撃したが24日敗退。中国軍は大々的に対日戦勝利を叫んだ。

「歴史写真」

昭和11年 11月

1(日) ●警視庁、交通渋滞激化の銀座で一方通行開始。●後藤隆之助ら、国策機関「昭和研究会」設立。
2(月) ●日本初の人形博物館、東京・板橋に落成。
3(火) ●上海の紡績会社で抗日スト開始。四万人が賃上げ要求、抗日統一戦線の契機に。●米大統領にF・ルーズベルト再選。
4(水) ●広田首相、議会制度の刷新に関する軍部案を閣僚に配布(社大党など、政治干渉と猛反発)。●全国二〇〇組合が日本消費組合婦人協会設立。
5(木) ●シャム(タイ)、不平等是正のため日本との通商航海条約廃棄を通告(他国へも同様に通告)。
6(金) ●作家・長田幹彦を世話役とする流行歌手の集まり、「歌謡研究所」が第一回会合を開く。
7(土) ●帝国議会新議事堂の竣工式挙行。
8(日) ●中学校生徒九万人を集め、明治神宮奉拝式。
9(月) ●東京駅で「花売り娘」の営業が始まる。
10(火) ●観光開発の統制めざし、日本観光連盟発足。
11(水) ●タバコが一一年ぶり値上げ。「バット」が七銭から八銭、「敷島」が一八銭から二〇銭など。
12(木) ●演芸野球リーグ開幕。水谷八重子が始球式。
13(金) ●米陸軍省、ミッドウェー島基地化計画を発表。
14(土) ●関東軍支援の内蒙古自治政府軍、中国綏遠省に進撃開始(綏遠事件。24日敗退)。
15(日) ●米NBC、開局十周年で各国と交換放送。日本からは市丸の「天龍下れば」を放送。
16(月) ●東京市電の案内ガール二五人が、利用客増による増便で人手不足のため車掌に復帰。
17(火) ●日本赤十字病院、東京・渋谷に完成し落成式。
18(水) ●独伊、スペインのフランコ政権を承認。
19(木) ●パリ—東京間懸賞飛行中の仏・ジャピー機(15日パリ出発)、佐賀県背振山に墜落。
20(金) ●秋田県の三菱鉱業尾去沢鉱山の鉱滓溜池の堤防が決壊、下流の住民三八〇人が死亡・不明。
21(土) ●商工省、日石などに液化天然ガス企業化要請。
22(日) ●名古屋で「中部日本航空大ページェント」挙行。
23(月) ●米で週刊グラフ誌「ライフ」創刊。
24(火) ●両切りタバコ「光」発売。一〇本入り一〇銭。
25(水) ●ベルリンで日独防共協定、調印。
26(木) ●前造兵廠長官・植村東彦を収賄で起訴と公表。
27(金) ●閣議、予算案決定。軍事費は歳出の四六%。
28(土) ●国際電話と日本無線電信、合併に合意。
29(日) ●日本アルミニウム、台湾工場でバイヤー法によるアルミニウム生産を開始。
30(月) ●前畑秀子、名古屋医大助手との婚約を発表。

「国際写真新聞」

▲伊東線宇佐美トンネル貫通(12月12日)昭和8年着工、温泉地帯を貫く難工事をやっと克服、網代—伊東間がつながった。13年完成、12月に伊東線熱海—伊東間は全線開通した。

◀「講談社の絵本」発売(12月1日)ひとつの物語を28枚の画にまとめた画期的なもので、まず『乃木大将』『四十七士』『岩見重太郎』『漫画傑作集』の4冊が出た。定価35銭。昭和17年までに総部数7000万部にも達した。

「国際写真新聞」

▲切手自動販売機開発(12月)上部の穴から1銭銅貨を、2銭切手なら二つ、4銭切手なら四つ入れ、取っ手を引くと下部の口から出てくる仕組み。中央はポスト。翌年以降、東京中央郵便局窓口、百貨店などに登場した。

▼プロ野球初の優勝決定戦(12月9日)東京湾ぞいの洲崎球場で巨人—タイガースが対戦。第1戦、タイガースの景浦将(写真)が巨人の沢村栄治から3ランを放ったが敗北。11日、巨人が2勝1敗で優勝。

毎日新聞社

▶ロンドンのクリスタル・パレス全焼(11月30日)長さ560、幅120、高さ30メートルの「水晶宮」が火炎を吹き上げて燃え落ちた。1851年の第1回万国博覧会展示館として建てられ、近代建築の先駆とされた歴史的建築物だった。

「国際写真新聞」

▶大日本傷痍軍人会発足(12月2日)政府が監督・指導する全国組織に改編、東京・九段の軍人会館で発会式を挙行。9月の在郷軍人会再編同様、総動員体制実現の一環だった。

「国際写真新聞」

昭和11年 12月

1(火) ●略号を利用した慶弔電報、時刻指定配達など、電報のサービス拡大。
2(水) ●大日本傷痍軍人会、発足。●日伊、「満州国」とエチオピア占領を相互承認。
3(木) ●古川ロッパのレビュー「歌ふ金色夜叉」開幕。
4(金) ●東京・赤坂の歩兵第一連隊で中学生の射撃訓練中、配属将校の拳銃暴発。生徒一人死亡。
5(土) ●ソ連でスターリン憲法成立。
6(日) ●静岡県川奈で国際観光ホテルとゴルフ場開場。
7(月) ●メキシコ外相、トロツキーの居住許可と言明。
8(火) ●工員の情操教育と能率向上のため各社が工場音楽団結成を奨励、と新聞に。
9(水) ●内務省、貧困にあえぐ母子家庭の実態調査を東京市社会局に依頼。
10(木) ●英国王エドワード八世、米人女性と結婚するため退位(「王冠を賭けた恋」)。
11(金) ●プロ野球優勝決定戦で巨人が大阪タイガースを二勝一敗で破る。最多勝利は沢村栄治。
12(土) ●張学良、国共合作に反対する蔣介石を西安で監禁(西安事件。16日、周恩来が調停)。●兵庫県下の七銀行が合併し神戸銀行設立。
13(日) ●東京の中学入試は国語・算術のみと新聞に。
14(月) ●各所で赤穂浪士追悼会。東京・高輪泉岳寺の墓には午前中で五万人が参詣。
15(火) ●児童虐待防止協会が第一回評議委員会開催。取締り強化すれば一家食えず、協会困惑。
16(水) ●滋賀県から隆鼻整形手術のために上京した少女、手術に失敗し徘徊中を保護される。
17(木) ●美ち奴歌う「あゝそれなのに」発売。
18(金) ●川口の鋳物業者代表、銑鉄不足を日鉄に陳情。
19(土) ●尾崎行雄『独裁政治を排撃す』発行(23日発禁)。
20(日) ●洋画家の石井柏亭・安井曾太郎ら、一水会結成。
21(月) ●那覇—鹿児島間に無線電話開通。
22(火) ●早川雪洲、仏映画に主役出演の契約結ぶ。
23(水) ●警視庁に一七年ぶり警察犬復活が決まる。
24(木) ●「時事新報」、廃刊と「東京日日」への合併決定。
25(金) ●二十五歳禁酒法期成同盟、議会請願を決定。
26(土) ●東京音楽学校で小学校教員らに絶対音感講習。
27(日) ●新島・式根島で地震。三人死亡、三五戸全壊。
28(月) ●東京市の要給食児童は前年比千七百余人増加。
29(火) ●秋田県能代町で大火。一二九戸焼失。●この年誕生の博士一〇九二人、八八%は医博。
30(水) ●東京の百貨店は前年比一~三割増収と新聞に。
31(木) ●ワシントン海軍軍縮条約失効、無条約時代に。

我楽多市

流行語
女房は戦前から強かった。

「うちの女房にゃ髭がある」。この年一一月封切の日活映画（主演・杉狂児）のタイトルで、不況で稼ぎも少なく意気のあがらない亭主に対して、いばりちらす妻をからかったもの。"ヒゲがある"というのは、"官員さん"のようにヒゲをはやして尊大にかまえているという意味。これに対して主題歌の「あ、それなのに」（歌・美ち奴）は妻の言い分を歌ったもので、こちらは女性に受けて五〇万枚の大ヒットとなった。

「下腹部」。阿部定事件の報道で新聞社が困ったのは、切り取られたものをどう表現するかということである。そのものズバリだと、発禁の恐れがあった。そこで考え出されたのが「下腹部」という言葉。これは言いえて妙だというので、たちまち広がり、現在でも男女両方に用いられている。

「怪人二十面相」。江戸川乱歩が少年向けに書いた探偵小説のタイトルで、変装の名人の怪盗二十面相対名探偵の明智小五郎と小林少年の対決が少年たちの心をとらえ、明智や小林少年は善の、そして二十面相は悪のヒーローとしてもてはやされた。

食
名声楽家の歯痛が生んだ名物ステーキ

東京・帝国ホテルの食堂のメニューに「シャリアピン・ステーキ」というのがある。値段は五五〇〇円。シャリアピンとはソ連の世界的な声楽家で、昭和一一年に来日し、このステーキもその時生まれた。シャリアピンは帝国ホテルに泊まっていたが、歯槽膿漏で歯ぐきが腫れあがり、満足に食べることができない。このため食堂に「食べやすいものを作ってほしい」と依頼した。そこでシェフの筒井福夫が、日本のすきやきをヒントに考案したのがこのステーキ。肉を薄く引き伸ばし、すりおろした玉ネギにひたして、おいしさと食べやすさを強調したのである。シャリアピンはこれが大変気に入って毎日食べたという。その後、帝国ホテルの看板料理となり、現在でも人気を集めている。

（竹谷年子『帝国ホテルの昭和史』）

CM100年

ポスター「ニッケ靴下、ニッケメリヤス」（日本毛織）

▲奥山儀八郎画。奥山はダイナミック、簡素、戯画的なスタイルで同社のポスターを多く手がけ、現代の商業美術に多くの影響をおよぼした。

▲松下井知夫画「串差おでん」。この年4月に刊行された「現代連続漫画全集」に収録された作品で、これが松下のデビュー作だった。

日本漫画資料館提供

社会
南氷洋捕鯨への夢託し「日新丸」起工

昭和一一年二月二六日、まさに「二・二六事件」が勃発したその日、神戸の川崎造船所では日本初の捕鯨母船「日新丸」の起工式が行われた。日本の南氷洋捕鯨への夢を託した船である。総トン数一万六七六四トン、全長一六四メートル、最高速力一四・六ノット。突貫工事によって船はわずか一五七日で完成、八月一日午前四時四五分進水式を行った。国民の期待は大きく、夜明け前にもかかわらず、進水式には一万人の市民が見物に訪れ、市電は午前三時から運行した。

（泉井守一『捕鯨一代』）

文化学園提供

▶文化裁縫学校が四月五日、服装雑誌「装苑」創刊。一三二ページ、定価一〇銭。

奇姓珍名
名前だけで四七字 世界一長い名前の赤ん坊

〔新潟発〕新潟県北蒲原郡本田村役場に、村人が「女の子が生まれたので……」と出生届を提出。これがつけもつけたり四七字、いろは四八文字の最後の「ん」だけをのぞいたものが記入してある。親はふざけているわけではなさそうだが、役場では受理するかどうか協議するという

（「大阪朝日新聞」七月一四日）

三面記事
産業スパイの"元祖"は福島で

土屋写真館提供

▲8月8日から13日まで、長野県軽井沢町で、開発50周年を祝う記念祭が開催された。写真は8日に行われた街頭パレード。

一九八〇年代に入ると、他社の最先端の技術やノウハウを盗もうとする「産業スパイ」が横行した。この「産業スパイ」という言葉が登場したのは昭和一一年一一月である。当時、福島市の日東紡ではスフを製造していたが、市内の製作所の工員がその機械の秘密をさぐろうとして日東紡にもぐりこみ、県警に逮捕された。しかし長時間の取り調べのすえに釈放されたので「福島民報」の渡辺春也という記者が、主任刑事に「何の容疑で逮捕し、また釈放した理由は？」と尋ねたところ「機械の秘密をさぐろうとしたもので、盗んだわけでも他人を傷つけたわけでもないので、罪にはできない」という答えが返ってきた。「これは法の盲点だ」と感じた渡辺記者はあれこれ考えたすえに「産業スパイ」という言葉を思いついたという。

（野口佳子『月給取りの昭和史』）

競馬
初の女性騎手に恋のおそれで出場停止

日本初の女性騎手として、競馬界に女性の新職業を開いた内藤澄さん（二四）は、三日の淀記念競馬でデビューすると期待されていたが、横槍が入って出場できなかったことが判明。すなわち農林省が内藤さんの人気に驚いて、これに続いて続々と女性騎手が出現したら、男女騎手間の風紀問題や、恋と勝敗とのデリケートな問題を生ずるおそれがあるとして出場を不許可にしたと言われている。

（「京都日出新聞」四月二三日）

豊島区立郷土資料館提供

▶従来のアルミニウム製に代わって、この年、腐食しにくく丈夫なアルマイト製弁当箱が普及。

はやり歌

東京ラプソディ

作詞 門田ゆたか　作曲 古賀 政男

花咲き花散る宵も
銀座の柳の下で
待つは君ひとり　君ひとり
逢えば行く　ティールーム
※楽し都　恋の都
　夢のパラダイスよ　花の東京

うつつに夢みる君の
神田は思い出の街
今もこの胸に　この胸に
ニコライの　鐘も鳴る
（※繰り返す）

明けても暮れても歌う
ジャズの浅草行けば
恋の踊り子の　踊り子の
黒子さえ　忘られぬ
（※繰り返す）

夜更けにひととき寄せて
なまめく新宿駅の
彼女はダンサーか　ダンサーか
気にかかる　あの指輪
（※繰り返す）

▶昭和一〇年、東京に進出したテイチクが、古賀政男を専属作曲家にして放ったヒット曲のひとつ。藤山一郎が歌った。

忘れちゃいやよ

作詞 最上 洋　作曲 細田義勝

月が鏡で　あったなら
恋しあなたの　面影を
夜毎うつして　見ようもの
※こんな気持で　いるわたし
　ねえ　忘れちゃいやよ
　忘れないでネ

昼はまぼろし　夜は夢
あなたばかりに　この胸の
熱い血潮が　さわぐのよ
（※繰り返す）

風に情が　あったなら
遠いあなたの　その胸に
燃える想いを　送ろもの
（※繰り返す）

遠藤憲昭提供

◀渡辺はま子が歌ってヒットした、官能的な"ねえ小唄"。時局にそぐわないと内務省の検閲にひっかかり、発売三ヵ月目に発売禁止の憂き目を見た。

JASRAC（出）許諾第9712169−701号

珍事件
銭湯の浴槽に電流 その時、入浴客は？

東京・品川区の銭湯で客が入浴中、突如、浴槽内に電流が流れるという事件があった。夕方六時頃のことで、男女湯とも五、六人が入浴していたが、いきなり全身がビリビリ！　びっくりした客は裸のまま、悲鳴を上げて逃げまわった。いたずらにしては悪質と警察が調べたところ、隣の食堂が店頭に幟を立て、竿を針金で巻いていたが、この針金が街灯用の電線と接触していた。このため街灯に点灯した瞬間、電気がトタン屋根を伝わり、さらに屋根に結びつけてある銭湯の煙突の針金を通して浴槽に流れたものとわかった。

（「読売新聞」四月六日）

データ
公娼より私娼が"親孝行" 娼妓の送金調べ

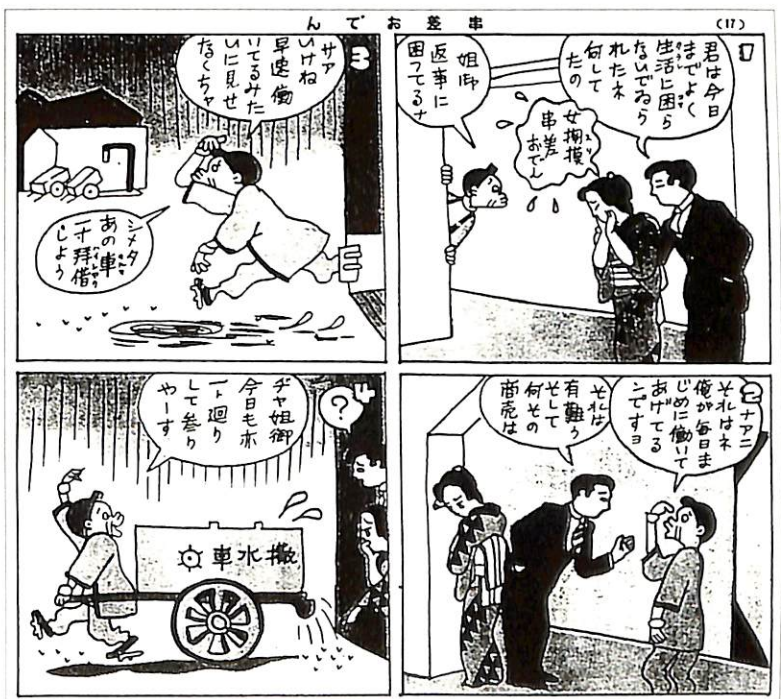
東京市社会局が玉の井、亀戸の私娼と、吉原、品川、新宿などの公娼について、親元にいくら送金したかを調査した。その結果、私娼は一八五〇人で合計三一万六七〇〇円。公娼は人数では四倍の七三〇〇人いるが、送金額はほぼ同額の三三万七〇〇〇円。私娼の方がかなり"親孝行"だということがわかった。なお最高は玉の井の私娼で、一年間に六〇〇〇円も送金していた。

（草間八十雄『娼妓の社会学的研究』）

この年の初もの
映画の一本立て興行 京都・歌舞伎座で開始

●**貸電話**　運動会や商店街の売り出し期間中貸し出すもので期限は三〇日以内、料金三〇円。

●**慶弔電報**　慶祝用の電報用紙は高砂、鳩、鶴亀の三種で、電文は出産、入学、栄転、成功など一八種。弔意の用紙は黒枠。

●**スポンジ**　米イーストマン・コダック社が開発。

▶フランスから輸入した軽飛行機プー（虱の意）の公開飛行。三月、羽田空港で。

「私の愛する夫人の援助なくしては……」
英国王エドワード八世退位！
シンプソン夫人との〃王冠を賭けた恋〃

チャールズ皇太子とダイアナ妃の離婚など、数々のスキャンダルで揺れ動いたイギリス王室。実は六二年前の一九三六年には、エドワード八世がシンプソン夫人との「禁断の恋」を貫くため、即位後一一ヵ月にして、王位を弟のヨーク公に譲位するという〃二〇世紀最大の恋愛事件〃が起こり、全世界にセンセーションを巻き起こしていた。

▲1937年5月3日、シンプソン夫人の確定離婚判決があった日、ウィンザー公はフランスのトゥール近郊、カンデ城に急行、半年ぶりにシンプソン夫人と対面した。 Popperfoto ユニフォト・プレス

四二歳の国王が下した生涯で最も重大な決意

一九三六年一二月一〇日、ロンドンの英国議会下院は緊張の渦に包まれた。各党の議員六百余人には一人の欠席者もなく、傍聴席も超満員であった。国王エドワード八世が、過去二回も離婚歴があるアメリカ女性、ウォリス・シンプソン夫人（四〇）との愛を貫くため、王位を捨てる勅語に署名、その可否を問うためであった。

午後三時四一分、ボールドウィン首相（六九）は静かに議長席に歩み寄り、エドワード八世の勅語を手渡した。

「先帝の崩御により即位した英国国王の王位を退くことを決意せり……」

議長が悲痛な声でその勅語を読みあげると、議場は興奮と安堵が入りまじる騒然とした雰囲気に一変した。勅語に基づく退位法案は四〇三票対五票（白票あり）の圧倒的多数で下院を、次いで上院も通過し、エドワード八世の退位が確定するとともに弟のヨーク公（四一）が王位を継承することとなった。

そして翌日、エドワード八世は、ウィンザーの別邸で一族との最後の別れをおしみ、その夜一〇時一分、BBC放送を通じてイギリス国民に対し退位声明を発表した。

「なぜ私が王位を捨てるのか。それは私の愛する夫人の援助なくしては国王としての重い責任をはたすことができない。親族は大反対し、最後まで私の決断を隠そうとしたが、私の生涯の最も重大な決意をここにしたのは、結局はこれが万人の幸福であるとの信念を得たためである」

声明文は終始静かな調子で読みあげられ、最後に「余は国王にあらざれど、神よ、王に恵みを下されんことを」という言葉でしめくくった。この時、彼は四二歳、独身であった。

そして一二月一二日、ヨーク公アルバート王子が王位につきジョージ六世となると、前君主エドワード八世にはウィンザー公の称号が与えられ、公は翌一三日、英国軍艦「フュリー号」でシンプソン夫人の待つフランスのカンヌに出発したのである。

「私は母親からこの一大ロマンスの話を聞き、大変感動しました。日本人の社会通念から考えれば理解しがたいことですが、西洋の文化、特にキリスト教の考え方からすれば、とても人間らしい行為だったと言えます。人間は罪を犯す弱い存在であり、神の前では無力であると教えているからです」

こう語るのは、皇室問題に詳しい文化女子大学の渡辺みどり教授である

Popperfoto ユニフォト・プレス

▲1936年12月初め、エドワード8世退位反対のデモをするロンドン市民。

退位から六ヵ月後フランスで結婚式

国王エドワード八世を恋の虜にしたウォリス・シンプソン夫人は一八九六年生まれで、メリーランド州ボルティモアの旧家、ウォーフィールド家の出身だった。

彼女の最初の結婚は一九一六年、相手はシカゴの富豪の子息で、ウィンフィールド・スペンサーという海軍中尉であった。しかし軍務に多忙な夫と社交好きの彼女は一一年目に離婚する。そしてその翌年の一九二八年、彼女はイギリスの船会社の重役の子息、アーネスト・シンプソンとテニスを通して親しくなり再婚、ロンドンの社交界に華々しくデビューす

「歴史写真」

▲皇太子時代も即位後も、二人は交際を隠そうとしなかった。

外から見たNIPPON

“スパイ”ゾルゲが総括した「二・二六事件」の背景

――佐伯　修

この年の二月二六日早朝、雪景色の帝都・東京の心臓部に、青年将校に率いられた約一四〇〇人の陸軍部隊が出動、重臣らを殺傷し、官庁街一帯を占拠した。

この事件発生直後から、蹶起側・鎮圧側の両部隊が対峙する街を、カメラとドイツ大使館発行の記者証を持って駆けまわり、蹶起側の主張や市民の反応を収集する、長身、ブロンドの白人の姿があった。ドイツの新聞「フランクフルター・ツァイトゥング」日本通信員、リヒアルト・ゾルゲ（一八九五～一九四四）である。三日目の朝……「八時ごろにわかに上空に飛行機の爆音がとどろいた。巨大な爆撃機が新国会議事堂のコンクリート塔屋の頭上で不審な輪を描いた。爆弾を投下するかのように、ずっと下まで舞い下り、やがて急上昇した。追いたてられた住民は息を凝らして最初の爆発を待った。しかし静かなままであった――何千というビラがパタパタと反乱者の頭上におちてきた。最後のひるがえすことのできない警告と大命である！それと同時に、戦車と装甲車が四方八方から反乱者陣の中心めがけて集中的に進んできた。その背後には突撃隊を先頭に立てた歩兵縦隊がつづいた。一発もうたれなかった。官軍が最後のはげしい白兵戦を覚悟して議事堂のすぐ前に来たとき、打ちひしがれ、つかれきった反乱者の最初の数団が隠れ場所から現われてきた。警備司令官が布告した天皇の最後の警告が効いたのである」（石堂清倫訳「東京における陸軍の反乱」）

事件の翌月、「地政学雑誌」に書き送った記事の中で、ゾルゲは、事件の背景には、日本の「農民と都市小市民の社会的窮境」があり、政党がそれらの層を本気で救おうとしない以上、将兵のほとんどが「農民と都市小市民」の出身者である陸軍が、「農民と都市のこれらの層の強まる緊張の代弁者と機関にならざるをえない」と、この「東京師団の反乱の意義」を総括している。

アゼルバイジャンのバクー生まれ、独露混血のゾルゲは、表向き忠実なナチス党員であり、右の「地政学雑誌」も、ナチスの世界戦略の理論家、ハウスホーファーが創刊したものである。しかし、彼は同時に、ソ連赤軍第四本部所属の敏腕諜報員であり、私生活では、ソ連に妻カーチャがいるほか、ドイツ武官オットーの妻ヘルマとの不倫、ビアレストラン「ラインゴールド」のウェイトレス、石井花子との恋が進行中であった。

ゾルゲとそのグループは、日米開戦直前の昭和一六年一〇月、当局に摘発される。

▲昭和19年ロシア革命記念日に絞首刑。

ることになった。

このシンプソン夫人をまだ皇太子だったエドワードに「非常に快活な米国女性」との折り紙をつけ紹介したのは、皇太子の元愛人、テルマ・ファーネス夫人であった。

一九三二年一月三〇日、皇太子エドワードはシンプソン夫妻を突然ウィンザーに招待、皇太子とシンプソン夫人はたちまち意気投合し、二人の仲は急速に深まっていった。地中海のヨット遊びにも夫人を同伴、そろいのセーターを着用するほどであった。イギリス国民はこうした光景をあたたかく見守り、二人は訪れる先々で大歓迎を受けた。

皇太子エドワードが父ジョージ五世の崩御にともない王位を継承したのは一九三六年一月二〇日。驚くことに、即位式にのぞんだ新国王のそばには立会人としてシンプソン夫人が付き添っていた。その時、シンプソン夫人はこれまで経験したことのない荘厳な儀式を目のあたりにし、身を引こうと考えたが、もはや国王の気持ちを変えることはできなかった。

国王が、彼女の夫であるアーネスト・シンプソンにウォリスとの離婚を迫ったのは一九三六年五月、王室ヨークハウスでのディナーパーティの席である。

「国王はシンプソン氏に奥さんと別れるよう説得したのですが、二人のやりとりは次第に激しくなり、ついには殴り合いになってしまった。同席していたボールドウィン首相も、国王に反発しましたが、国王は『私がウォリスをあきらめ、王位に座り続けるとでも思っているのかね』と言ったそうです」（前出・渡辺教授）

一方、シンプソン夫人は夫のアーネストを姦通を理由に提訴し、離婚の仮判決は一九三六年一〇月二七日に下った。

退位後、ウィンザー公はフランスに、ウォリスはオーストリアに滞在、離婚法による制約が切れ、二人が再会したのは一九三七年五月、そして、フランスのカンデ城のサロンで結婚式が行われたのは一九三七年六月三日である。

その後、ウィンザー公は第二次大戦中、英国領バハマ総督に任命され、夫人とともに大任をはたした。終戦後はフランス政府からブローニュの森に三階建ての住居を提供され、夫人を生涯のよき伴侶として余生を送ったのである。

◀一九三七年六月三日、フランスのカンデ城で結婚式が行われた日の二人。

Popperfoto　ユニフォトプレス

エドワード八世（1894～1972）
英国国王ジョージ五世の長男。第一次大戦で従軍、戦後は世界を歴訪。一九三六年王の死去により即位したがシンプソン夫人との結婚を決意、退位。

往きて還らぬ

毎日新聞社

▲7月12日　7代市川中車(76)
歌舞伎俳優。大正7年7代中車を襲名。東京・歌舞伎座の重鎮として活躍、当たり役に「太功記」の光秀など。

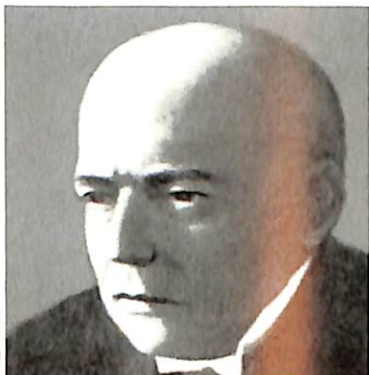
▲6月18日　M・ゴーリキー(68)
ソ連を代表する小説家の一人。1902年戯曲「どん底」を発表。社会評論なども手がけた。病死だが毒殺説も。

▲3月11日　夢野久作(47)
小説家。大正15年「あやかしの鼓」発表、昭和10年『ドグラ・マグラ』で人気作家に。父は右翼の大物・杉山茂丸。

▲1月11日　生田長江(53)
評論家、小説家、翻訳家。明治末期、ニーチェの『ツァラトゥストラ』を翻訳刊行。大正3年森田草平と「反響」創刊。

▲10月8日　下田歌子(82)
女子教育の先駆者。明治14年桃夭女塾開設、32年実践女学校（後に実践女子学園）創設。宮中女官もつとめた。

◀4月21日　高峰筑風(56)
琵琶演奏家で、高峰流の創始者。明治末～大正期に筑前琵琶の名人として活躍。女優の高峰三枝子は娘。

毎日新聞社

▲2月12日（5月8日説も）　O・シュペングラー(55)
ドイツの哲学者。著書『西洋の没落』で世界の終末を予言し反響を呼んだ。

▲10月19日　魯迅(55)
中国の小説家で、『阿Q正伝』で知られる。1902年来日、仙台医学専門学校で7年間学んだ。ほかに『狂人日記』など。

毎日新聞社

▲5月3日　池田菊苗(71)
物理化学の第一人者で、元東大教授。明治41年に発見したグルタミン酸ナトリウムは「味の素」として発売された。

毎日新聞社

▲10月23日　2代目安田善次郎(58)
実業家。一代で安田財閥を築いた安田善次郎の長男。大正10年家督を継ぎ、安田銀行頭取のほか安田系銀行を統率。

▲6月27日　鈴木三重吉(53)
小説家から童話作家に転じ、大正5年童話集『湖水の女』刊行。大正7年雑誌「赤い鳥」を創刊、童話ブームを作った。

▲6月10日　土田麦僊(49)
日本画家。舞妓を描いた作品で著名。大正7年村上華岳らと国画創作協会結成、代表作に「大原女」「舞妓林泉」など。

▲2月27日　I・P・パブロフ(86)
ソ連の生理学者。犬を使った条件反射反応（パブロフの犬）で知られる。1904年ノーベル生理学・医学賞受賞。

既刊48冊！ 1940・1950・1960・1970年代がそろいました。

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第49号 2月3日(火)発売 定価560円 毎週火曜日発売 講談社 本体533円

1937［昭和12年］

●特集
八年におよぶ日中全面戦争の発端！「盧溝橋事件」と一発の銃弾／建造費一億六三〇〇万円のプロジェクト　超弩級戦艦「大和」着工！／〔特別企画〕秘蔵写真一挙公開！　戦艦「大和」の試運転から最期まで／日本国民には伏せられた暴虐「南京大虐殺」の証言！／「アメリアは日本軍に処刑された？」“A・イアハート遭難事件”の真相

●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する365日…浜田国松、寺内陸相と腹切り問答（1月21日）／死なう団事件（2月17日）／「神風号」ロンドン着（4月9日）／「別れのブルース」発売（6月20日）／政府、中国に「断固たる膺懲」と声明（8月15日）／大本営政府連絡会議設置を決定（11月19日）

●人物クローズアップ
東宝移籍問題で、長谷川一夫、斬られる

●決定的瞬間
「ヒンデンブルク号」爆発炎上！

●美の出会い
横山大観に第一回文化勲章

●女たちの肖像…豊田正子と『綴方教室』／勝者・敗者…沢村栄治、「東西対抗」で完封／証言・あの日この日…宇垣一成、鏑木清方／「現場」を歩く…中野、“駅のそば”の丸井本店／20世紀博物館…ハカリの小博物館（京都）／外から見たNIPPON…英国婦人が見た「東京の百貨店」

●ベストセラー…『濹東綺譚』『雪国』／スターと名場面…山中貞雄「人情紙風船」／モノ語り'37…サントリーの“角瓶”

日録20世紀専用バインダー

高級感あふれる特製バインダーを用意しました。「日録20世紀」全100巻を10冊ずつ年代順にバインダーにとじてそろえれば、「20世紀」ビジュアル百科のできあがり。10年ごとに分類するためのシールも添付。取りはずしは簡単で、整理にも便利、じょうぶな仕上がりです。あなたの書斎を飾るホーム・ライブラリーとして、永く保存してお楽しみください。バインダーは1部1300円（税別）。全国の書店でお求めください。

■既刊好評発売中

創刊号1959［昭和34年］　第2号1964［昭和39年］　第3号1945［昭和20年］　第4号1970［昭和45年］　第5号1963［昭和38年］　第6号1958［昭和33年］　第7号1972［昭和47年］　第8号1980［昭和55年］　第9号1976［昭和51年］　第10号1989［平成元年］

第11号1960［昭和35年］　第12号1961［昭和36年］　第13号1962［昭和37年］　第14号1965［昭和40年］　第15号1966［昭和41年］　第16号1967［昭和42年］　第17号1968［昭和43年］　第18号1969［昭和44年］　第19号1941［昭和16年］　第20号1942［昭和17年］

第21号1943［昭和18年］　第22号1944［昭和19年］　第23号1946［昭和21年］　第24号1947［昭和22年］　第25号1948［昭和23年］　第26号1949［昭和24年］　第27号1950［昭和25年］　第28号1923［大正12年］　第29号1971［昭和46年］　第30号1973［昭和48年］

第31号1974［昭和49年］　第32号1975［昭和50年］　第33号1977［昭和52年］　第34号1978［昭和53年］　第35号1979［昭和54年］　第36号1951［昭和26年］　第37号1952［昭和27年］　第38号1953［昭和28年］　第39号1954［昭和29年］　第40号1955［昭和30年］

第41号1956［昭和31年］　第42号1957［昭和32年］　第43号1931［昭和6年］　第44号1932［昭和7年］　第45号1933［昭和8年］　第46号1934［昭和9年］　第47号1935［昭和10年］

■今後の刊行予定

▶第50号1938［昭和13年］2月10日発売
幻の東京五輪●岡田嘉子・杉本良吉、ソ連へ越境●代用品時代始まる●笑いの慰問団「笑わし隊」

▶第51号1939［昭和14年］2月17日発売
双葉山、69連勝でストップ●ノモンハン事件の悲惨●「零戦」初の試験飛行●第2次世界大戦勃発！

▶第52号1940［昭和15年］2月24日発売
「紀元は二千六百年！」●「贅沢は敵だ！」、統制強まる●日独伊三国同盟締結●“海の狼”Uボート

バックナンバーは、お近くの書店でお求めください。創刊号のみ282円（税別）です。直接弊社にご注文の場合は、冊数に関係なく、送料200円のご負担となります。なお、代金と送料は先にお送りください。申込先　講談社読者サービス係　電話03-5395-3676

ミニ事典

1936年の キーワード

「北支処理要綱」

陸軍、海軍、外務の三省が決定した中国・華北地方に対する基本方針。一月一三日、河北とチャハルを勢力圏とする冀察政務委員会を国民政府から切り離して日本の傀儡政権とし、これを突破口に華北五省の自治を達成するという第一次案を決定。八月一一日には華北五省への防共親日満地帯の建設を企図した第二次案が決定された。対ソ戦を不可避とする陸軍にとって、華北の鉄鉱などの資源は不可欠だった。

D51形蒸気機関車

「満州事変」後の戦時輸送増大の要請にこたえて国鉄が開発、二月二九日に川崎車両で第一号が完成した貨物列車用蒸気機関車。愛称、デゴイチ。大正一二年生産のD50形の牽引能力が九〇〇トンだったのに対し、D51形は一一〇〇トンと格段にパワーアップ。昭和二〇年までに一一一五両が生産された。

高田隆雄

▲D51形蒸気機関車。製作時期により、煙突後方の「ドーム」や炭水車の形が変化する。写真は最初期形の22号機。

軍部大臣現役武官制

陸・海軍大臣の任命を現役の大・中将に限るとする制度。五月一八日、勅令発布、即日施行された。この制度は明治三三年、山県有朋内閣が政党勢力を牽制するために制定したが、後に予備・後備の将官でも大臣になれる官制に改められていた。「二・二六事件」後、粛軍が叫ばれると、統制派は軍部大臣現役武官制を復活、皇道派を予備役に押しやり、併せて軍部独裁国家形成をはかった。

東方会

衆院議員・中野正剛が東亜問題の研究・実践団体として創設、五月二五日に政治団体に改組された国家主義的団体。機関誌「東大陸」を発行。昭和一二年四月の総選挙で一一議席を獲得、日中戦争の進展とともに全体主義的単一国民政党をめざしたが、一八年に中野が「戦時宰相論」で首相・東条英機を批判して逮捕され、釈放後に自殺、会も崩壊した。

▶東方会会長・中野正剛。新聞記者として活躍し、後、政界に進出した。

思想犯保護観察法

治安維持法違反者のうち、執行猶予や不起訴処分を受けたもの、刑期終了・仮出獄者に対して保護観察を行うことを規定した法律。五月二九日公布。対象者は全国二二ヵ所に設けられた保護観察所の監視下におかれ、住居の移動、交友関係、通信などを制限されるほか、さまざまな方法で「洗脳」された。しかもその期間・更新は審査会の判断にゆだねられ、思想弾圧の強力な武器となった。

国民歌謡

日本放送協会大阪中央放送局が六月一日からラジオ放送を開始した歌謡番組。この頃、渡辺はま子の「忘れちゃいやよ」に代表される「ねえ小唄」が流行、退廃的として政府統制の対象となっていた。これに対し「国民歌謡」は清新・明朗をめざして島崎藤村、西条八十、北原白秋らを起用、この番組から「椰子の実」「朝」などの愛唱歌が生まれた。

NHK放送博物館所蔵

▶国民歌謡のテキスト。第六集は「日本よい国」と「乙女の歌」を収載。

自動車製造事業法

外国自動車メーカーの日本での生産を抑制し、国産自動車産業の自立を促進するための法律。五月二九日公布、七月一一日施行。この頃日本では、横浜に組み立て工場を持つフォードが圧倒的シェアを誇っており、陸軍省はこれを国防上の危機ととらえていた。法施行を機に日産自動車と豊田織機製作所自動車部が許可会社となり、生産制限を受けた日本フォード、日本GMを尻目に急速に成長した。

「満」ソ国境問題

「満州国」建国以来続くソ連と「満州国」の間の国境をめぐる争い。「満州国」の背後には、対ソ戦を必至とし、それを戦略の中心におく関東軍がおり、ソ連もまた第二次五ヵ年計画で極東の経済建設を重視していた。そのため小規模な武力衝突などが後を絶たず、昭和一〇年までにその件数は三二八件にのぼった。七月一六日、日ソ会談が開かれたが、調整はまったく進まなかった。

南洋拓殖株式会社

マリアナ諸島など南洋諸島の資源開発と融資を目的とする国策会社。七月二七日、南洋拓殖株式会社令が公布施行され、一一月二七日、創立総会が開かれた。本社はパラオ諸島コロール島、初代社長・深尾隆太郎。資本金二〇〇〇万円。理事には拓務省の杉田芳郎、三井物産の下田文一とともに、軍人である海軍少将・北岡春雄の名があった。

国策の基準

広田弘毅首相、有田八郎外相、馬場鍈一蔵相、寺内寿一陸相、永野修身海相の五人により、この年八月七日に開かれた「五相会議」で決定された、政府の最高政策。南北両方面への「平和的」進出を決定、そのために必要な軍備・外交・内政を進めるとした。特に南進政策の採用は重要で、その後の未曾有の軍拡を許し、太平洋戦争開戦を決定づける重大な国の方針となった。

日独防共協定

コミンテルンおよびソ連の活動に対して、日独が協力して対抗することを約束した協定。一一月二五日調印。本文、付属議定書のほかに秘密付属協定があり、締約国のいずれかがソ連と軍事的に衝突した場合は他の締約国はソ連に有利な行動はしないといった内容がもられていた。日本にとってこの協定は対ソ戦略を有利にし、枢軸結成によって国際的孤立を避ける意義があった。後に日独伊三国同盟に発展。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1936

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター　山口至剛
表紙デザイン　山口至剛デザイン室＋茂村巨利＋渡邉裕
本文レイアウト　デザインオフィス八起き
編集協力　有エービーシープレス　株カマル社　株コミュニケーション・ハウス・ケースリー　シド・プロ　有マックス　有マライカ
飯田守　小原伸夫　鍵和田良輔　小松邦宏　張替政展　藤森雅弘、結城順一　吉田忠正
●写真協力
遠藤憲昭　影山光洋　影山智洋　ロバート・キャパ　高田竟一　但馬一憲　橘道彦　名取洋之助　平野美津子　師岡宏次　師岡美枝子
朝日新聞社　共同通信社　CORBIS・BETTMANN　国際フォト　コリアン・リソース・ネットワーク　JPS　中日新聞社
東亜日報　PPS　Popperfoto　毎日新聞社　マグナム・フォト　ユニフォト・プレス
土屋写真館　阪急電鉄　マツダ映画社　三菱重工業長崎造船所
アメリカ国立公文書館　NHK交響楽団　NHK放送博物館　大阪市立東洋陶磁美術館　大宅壮一文庫　川喜多記念映画文化財団　気象庁　クッのオーツカ資料館　埼玉県平和資料館　シルク博物館　たばこと塩の博物館　秩父宮記念スポーツ博物館　豊島区立郷土資料館　日本近代文学館　日本漫画資料館　中国文化省　文化学園　松下電器歴史館　立教大学図書館　日本民藝館

本誌収録写真につき、所在不詳などのため事前連絡ができないものがありました。お心当たりの方は、編集部までご一報ください。
©講談社 1998 本誌の記事、写真を無断で複写（コピー）、転載することを禁じます。